

令和5年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	A	子育て世代に選ばれる地域の創造	プロジェクト	2	教育再生による確かな成長の支援	施策	1	特色ある教育による知・徳・体の向上
目的	本市の教育環境や地域資源を活用した「時代の変化に対応した能力と学力の向上」、「規則正しい生活習慣の定着」、「社会や地域の中での豊かな体験・経験の充実」等の事業を地域と一体となって推進することにより、子どもたちの知・徳・体の成長を支援します。							

2 施策の指標における成果

生涯学習部に関する指標なし

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構 成の変更等につ いて)	・青少年育成事業は、他の手段により形を変えて目的達成を目指すこととしたい。 ・青少年育成施設運営事業は、行政の行うべき事業としては目的を達成していることから廃止とする。
役割分担の妥 当性 (市民や多様な 主体との連携 の方向性につ いて)	・青少年育成事業は、令和7年度から活動内容を大幅に見直し、役員負担の低減を図る。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ③	社会や地域に親しむ 心の育成	手段	子どもたちが、個性や能力を発揮し、自らの夢の実現に向けて意欲的に取り組む様々な体験学習を推進します。また、学校と家庭、地域が連携した教育体制の充実を図ることで、子どもたちの社会や地域に親しむ心を育成します。					
番号	施策を構成する 事務事業名	担当課	事業費(千円)			重点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	青少年育成事業	社会教育スポーツ課	7,911	8,716	9,060	△	縮小	縮小
2	青少年育成施設運営事業	社会教育スポーツ課	2,634	2,558	4,498	×	休廃止	皆減

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和4年度 事後評価

施策指標 の 要因分析	—
施策の 定性評価	・青少年育成センターの「見守り」を中心とした活動が定着し、子ども達が安心できる環境づくりが図られた。 ・「ジュニアリーダー養成講座」や「情報モラル講座」により、子どもたちの体験・経験の充実を図った。

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		青少年育成事業				担当課		社会教育スポーツ課							
目的	対象	青少年(小学生・中学生・高校生)				施策体系		2-1-3							
	意図	地域における児童の自主性及び社会性の向上を図るとともに、地域の活動の中心的役割を担う青少年を育成する。				新規/継続		継続							
手段		市内の子ども会育成会活動を促進するための補助金交付、次代の子ども達を牽引するリーダーを育成するジュニア・リーダー養成事業の実施及び青少年育成センターによる子ども会活動への参加				会計区分		一般							
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加				○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ミシャワカ市青少年派遣事業補助金交付(補正予算対応)				○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加 ○ながの子育て家庭優待パスポート事業 発送業務						
事業費・財源	決算額		(千円)		7,911	決算額		(千円)		8,716	予算額		(千円)		6,865
			青少年育成委員報酬		594			青少年育成委員報酬		535	青少年育成委員報酬				616
			青少年問題協議会報酬		0			青少年問題協議会報酬		0	青少年問題協議会報酬				41
			青少年健全育成事業補助金		4,899			青少年健全育成事業補助金		4,897	青少年健全育成事業補助金				5,105
			その他		2,418			その他		3,284	ながの子育て家庭優待パスポート継続関連経費				708
											その他				395
業務量(人工)	特定	0	一般	7,911	特定	0	一般	8,716	特定	0	一般	6,865			
	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規	0.78人	会計年度	0.70人	正規	0.77人	会計年度	0.70人			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・ジュニア・リーダー養成事業は、今年度12名の応募があった。全6回の講座のうち2回が完了しており、9月以降残り4回実施する。また、第2回の講座では、前年度のリーダー生4名の申込があり、リーダー会の活動が復活しつつある。 ・R3年度から実施している情報モラル講座は、今年度2地区(片丘、吉田)において実施する。参加者を受付中で、前年度と同数程度の申し込みが見込まれる。
当年度生じた新たな問題等	・区役員の負担軽減に取り組むことから委員選出に関して見直しが急務となった。青少年育成委員協議会は上部組織のある活動で廃止が困難であるため、子ども会育成会連絡協議会に統合する形で存続させ、活動内容の縮小を検討したい。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・育成委員協議会活動補助金 ・青少年健全育成事業補助金

○評価指標

評価指標(単位)	ジュニア・リーダー養成事業卒業生(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		37	37	50
実績値(事後評価)	37	37	50	
目標値		65	80	95
評価指標(単位)	青少年育成センターが主催する出前講座の実施回数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4	2	1
実績値(事後評価)	0	4	3	
目標値		3	3	4

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	⑥
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	縮小
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・ジュニア・リーダー養成事業は、研修内容を見直し6月から事業を開催した。13名の募集があり全6回の講座を実施した。 ・R3年度から実施した情報モラル講座は、3地区(塩尻東、高出、宗賀)で実施した。前年度より多い参加者の応募があったが、新型コロナの影響もあり、当日の欠席者も多かった。 ・隔年実施のミシャワカ市青少年派遣事業には、3名が参加した。
成果	・ジュニア・リーダー養成事業に参加した児童は、リーダーとしてまわりを思いやるなど新たな気持ちで育まれ、一定の成果があった。 ・情報モラル講座については、インターネット等を使用する際の注意点、プログラミングの基礎などを学び、情報化社会の知識向上に寄与した。
課題	・ジュニア・リーダー養成講座がコロナ禍で中止または縮小になったことにより、学生の養成が2年間でできず、卒業生によるリーダー会の活動が停滞している。 ・都市交流協会が解散したため、隔年実施のミシャワカ市青少年派遣事業のあり方について、今後検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	主任	氏名	杉本 千鶴	連絡先(内線)	3151
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	共生推進係長		氏名	三浦 恵美子

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	青少年育成事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	2 学校教育・学びの環境		目的	対象	青少年(小学生・中学生・高校生)			
	施策	学校外でも遊び、学び、生活の場などの「居場所」がある			意図		青少年の自主性及び社会性を育むと共に、地域活動の中心的役割を担う青少年を育成する。				
	2-4				手段		地域活動の補助金交付、養成事業の実施、育成センターの運営				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・青少年育成委員協議会は上部組織がある活動であり、廃止困難であるため、子ども会育成会連絡協議会に統合する形で存続させ、活動内容の縮小を検討する。令和6年度に各団体と協議し、令和7年度の新しい任期から統合する。	新年度予算 要求事項	・基本的に前年度経費と増減はないが、一部事務費で増額計上したい。
--------	--	---------------	----------------------------------

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加	○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の研修会参加	○ジュニア・リーダー養成事業の開催 ○ジュニア・リーダー会事業の開催 ○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の研修会参加

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	ジュニア・リーダー養成事業卒業生(人)	76	88	100
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
青少年育成委員報酬			616		616		616
青少年問題協議会報酬			41		41		41
青少年健全育成事業補助金			5,105	▲180	4,925		4,925
その他			406	▲12	394		394
					0		0
事業費合計			6,168	▲192	5,976	+0	5,976
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		6,168	▲192	5,976	+0	5,976

○ 評価コメント

第1次評価	・ジュニア・リーダー養成事業は、教育総務課のこども未来塾と統合することとして廃止し、対象参加者については柔軟に対応すること。 ・その他費用として提案のあった、封筒・保険料の増額は認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	主任	氏名	杉本 千鶴	連絡先(内線)	3151
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		青少年育成施設運営事業						担当課		社会教育スポーツ課					
目的	対象	市内外の青少年を主とした施設利用者						施策体系		2-1-3					
	意図	青少年が「社会を生きぬく力」を身につけるための体験学習の環境を提供する。						新規/継続		継続					
手段		塩嶺体験学習の家の維持管理、運営						会計区分		一般					
年度別 事業内容		令和3年度 ○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営			令和4年度 ○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営			令和5年度 ○塩嶺体験学習の家の維持管理、運営							
事業費・財源		決算額		(千円)	2,634	決算額		(千円)	2,558	予算額		(千円)	4,498		
		電力使用料			423	電力使用料			501	電力使用料			624		
		営繕修繕料			326	樹木管理委託料			0	その他			3,874		
		その他			1,885	その他			2,057						
		特定			0	一般	2,634	特定			0	一般	2,558	特定	1,373
業務量(人工)		正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規	0.09人	会計年度	1.40人	正規	0.10人	会計年度	1.40人		

○評価指標

評価指標(単位)	塩嶺体験学習の家青少年育成団体の利用比率(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0.0	0.0	82.5
実績値(事後評価)	0.0	0.0	0.0	
目標値		70.0	70.0	70.0
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	今後の方向性	⑦
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	休廃止
総合評価		D		コスト	皆減

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・施設の機能維持に必要な修繕を行った。 ・令和5年度の利用開始に向け運営内容を見直し、令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、本館のみ宿泊を含む通常利用を可能とした。
成果	・新型コロナの影響により、宿泊利用を停止したため施設利用がなかった。
課題	・下水処理の合併浄化槽への転換、施設の老朽化等により施設修繕及び工事が必要であり、多額の費用負担が見込まれる。今後の施設運営について施設の所有者と協議し、方針を決める必要がある。 ・R5年度で施設の賃貸借を終了し、代替として民間施設の利用を促していく。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・令和5年の利用開始に向け運営内容を見直し、5月からの新型コロナ5類移行を受け、本館のみ宿泊を含む通常利用を可能とした。 ・今後の施設利用検討のため、施設所有者等との調整を行った。
当年度生じた新たな問題等	・R5年度で施設の賃貸借を終了し、条例の廃止など必要な手続きを進める。 ・今後も地域発展のために民間運営施設として有効に活用されるよう施設所有者との情報交換を継続する。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	清水 柚果	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美

令和5年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	1	観光の振興
目的	観光資源の効果的な発信、観光客と市民の交流支援、国際化への対応等を行うことで、外国人も含めた観光客の市内への滞在時間の延伸を図ります。また、歴史的資源を次世代へ継承すべき財産として、価値を高めるよう適切かつ持続的に保存するとともに、観光の集客核として活用していきます。							

2 施策の指標における成果

指標		基準値 基準年度	達成値			目標値
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	檜川地区文化施設入館者数	14,611人 R1	9,591人	13,364人		15,000人
市民	奈良井・木曾平沢の重要伝統的建造物群保存地区の町並みを誇りに思う市民の割合	73.5% R2	78.3%	78.3%		76.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構 成の変更等につ いて)	・文化財保存活用地域計画の進捗管理やその推進については、文化財管理事業に統合する。 ・檜川文化施設は施設の老朽化、防犯対策が必要であり、併せて労働環境改善のため適正な施設整備が必要であることから重点化事業に位置付ける。 ・ひらいでの里魅力づくり事業を平出遺跡公園事業に統合し、ひらいで遺跡まつりなど遺跡公園周辺の地域遺産を積極的に活用した事業推進に努める。
役割分担の 妥当性 (市民や多様な 主体との連携 の方向性につ いて)	・重伝建地区内の継続した修理修景事業は、地域振興や観光にも寄与しているとともに、そこに住まう人々の誇りにもなっている。今後も地域住民と協同で地区の保存・活用を推進していく。 ・ひらいで遺跡まつり等の事業実施にあたっては、ボランティア団体をはじめ、地域住民の協力が不可欠であり、相互連携を図りつつ事業を推進していく。

評価者	所属	生涯学習部		職名	部長	氏名	胡桃 慶三	
施策担当課長	所属	文化財課	氏名	中村 琴江	所属	平出博物館	氏名	小松 学

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ②	歴史的資源の保存と活用	手段	事業費			重点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	文化財保存活用地域計画策定事業	文化財課	4,358	7,872	407	×	休廃止	皆減
2	重伝建整備事業	文化財課	20,747	18,389	19,973		現状維持	現状維持
3	檜川地区文化施設運営事業	文化財課	14,060	15,600	19,737	○	拡充	縮小
4	平出遺跡公園事業	平出博物館	7,484	7,217	8,986		拡充	拡大
5	埋蔵文化財保護事業	平出博物館	8,529	8,789	15,677	△	現状維持	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和4年度 事後評価

施策指標の 要因分析	・令和4年度はコロナ禍以降初めて行動制限のない1年となり、また全国旅行支援など国の対策により、観光客が増加し檜川地区文化施設入館者数は令和3年度より約40%の増加となった。 ・重伝建地区の町並みを誇りに思う市民割合が高いのは、長年に渡る継続的な修理修景事業実施に併せ、地域住民の想いや誇りにより伝統的な町並みが維持できているためと考える。
施策の 定性評価	・文化財保存活用地域計画は、行政はもとより地域全体で取り組み、本市の10年後、20年後を見据えた文化財保護行政の方向性を定める計画であり、文化財の再認識、地域への愛着を高めるとともに、地域振興に寄与するものである。

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化財保存活用地域計画策定事業						担当課		文化財課			
目的	対象	文化財所有者及び管理者、文化財を活用する住民等						施策体系		4-1-2			
	意図	文化財の保存と活用に関する10年間の長期計画の作成、文化財の積極的な保存と活用の推進						新規/継続		新規			
手段		・文化財等の現状把握 ・保存と活用に関する課題の抽出と今後の方針 ・保存と活用に関する措置と推進体制の構築						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○文化財等の現状把握 ○協議会の設置及び開催 ○住民アンケートの実施 ○地域計画の作成			○文化財リストの作成 ○協議会の開催 ○パブリックコメントの実施 ○地域計画本文の作成 ○計画内の措置について、庁内関係課・地元歴史関係団体から聞き取り			○計画認定に向けた文化庁との調整 ○地域計画印刷 【文化財管理事業に計上】					
事業費・財源		決算額		(千円)	4,358	決算額		(千円)	7,872	予算額		(千円)	407
					34				47	印刷製本費		407	
					68				68				
					62				49				
					4,180				6,930				
					14				778				
				特定	3,815	一般	543	特定	4,380	一般	3,492	特定	120
業務量(人工)		正規	0.69人	会計年度	0.11人	正規	0.69人	会計年度	0.11人	正規	0.61人	会計年度	0.00人

○評価指標

評価指標(単位)	策定協議会の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		1	1	0
実績値(事後評価)	-	2	3	
目標値		2	2	2
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	⑦
	有効性	1	低い		
	効率性	3	やや高い	成果	休廃止
総合評価		C		コスト	皆減

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・塩尻市文化財保存活用地域計画の作成を実施した。作成にあたり、策定協議会を3回開催し審議を経たほか、文化財保護審議会での意見聴取やパブリックコメントによる市民の声の把握、庁内調整、教育委員会、市議会常任委員会への報告、文化庁の指導・助言などを受け策定を進めた。
成果	・本市において文化財の保存と活用に関する初めてのマスタープラン及びアクションプランである文化財保存活用地域計画を策定することができた。 ・策定過程において、指定・登録以外の多くの地域の宝を把握することができ、併せて市民の文化財に対する潜在意識の把握ができた。
課題	・本市の文化財に対する一般市民の認知度が低いため、作成した計画の内容について周知を図ることで、本市の文化財の価値や魅力を伝えていく必要がある。 ・文化財所有者や担当課だけでなく、庁内他部署や地域住民、関係者など多様な主体によって、文化財を保存活用する取り組みができるよう促していくことが重要である。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・7月21日に文化庁の認定を予定通り受けることができた。計画の認定について、各種メディアを通じた情報発信を行ったほか、本計画や本市の文化財の魅力や特徴等について、テレビ広報や広報しおじり等で周知・PRした。また、公民館と連携し、文化財とテーマとした学習会を実施し、計画及び文化財の周知・PRを実施した。
当年度生じた新たな課題等	・令和6年度を始期とする第六次総合計画と実施期間が重なることから、総合計画と地域計画との整合を図る必要がある。 ・計画内の措置について、今後、所有者・行政・地域・関係者などが連携を図りながら取り組むとともに、措置の進捗状況について定期的に確認する場が必要。 ・本事業は計画の作成をもって終了となるため、計画の措置の取り組みは、文化財管理事業と関係部局の事業によって実行する。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹	

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	文化財管理事業			課名	文化財課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び文化財所有者			
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に			つながり、相互に知る機会が得られる		意図	文化財の保存・活用を図り、地域の大切な財産として次世代へ継承していく。			
	3－5						手段	文化財保護審議会や文化財補助金の交付等を行い、文化財の保存・活用を図る。			

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・文化財保存活用地域計画の進捗管理及び確実に推進するため、協議会を組織する。(要綱は作成済み) ・重要文化財小松・深澤家住宅の活用方針について検討し、活用内容を踏まえた保存活用計画を策定することで、適正な文化財管理を行う。	新年度予算 要求事項	・文化財保存活用地域計画を推進していくため、会計年度任用職員の配置を要求したい。 ・重要文化財小松家住宅の保存・活用方針を定めた計画を策定するための委託料を要求する。 ・文化財保存活用地域計画の進捗管理を行うため、協議会委員報酬及び交通費を要求する。 ・深澤家住宅の寄贈受入に伴い、維持管理費(光熱水費等)を要求する。
--------	--	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○文化財保護審議会の開催 ○文化財保護補助金 ○重要文化財小松家住宅保存活用計画策定 ○その他	○文化財保護審議会の開催 ○文化財保護補助金 ○重要文化財小松家住宅保存活用計画策定 ○重要文化財深澤家住宅保存活用計画策定 ○その他	○文化財保護審議会の開催 ○文化財保護補助金 ○重要文化財深澤家住宅保存活用計画策定 ○その他

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	文化財保護審議会の開催回数(回)	2	2	2
2	文化財保存活用地域計画内措置の取組数(件)	14	15	15

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
文化財保護審議会委員報酬		81		81		81
文化財保存活用地域計画協議会		54	▲54	0		0
指定文化財保護補助金		660		660		660
重要文化財小松家住宅保存活用計画策定		5,000	▲5,000	0		0
その他		1,547	▲278	1,269		1,269
事業費合計		7,342	▲5,332	2,010	+0	2,010
財源内訳	国庫支出金 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金	2,500	▲2,500	0		0
	県支出金 文化財保護事業補助金	150	▲150	0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 (名称)			0		0
	一般財源	4,692	▲2,682	2,010	+0	2,010

○ 評価コメント

第1次評価	・文化財保存活用地域計画協議会は、既存の文化財保護審議会にその機能を付加し実施すること。 ・小松家住宅保存活用計画策定は、まず、財源や周辺環境等を考慮し、部内で小松家の在り方を検討すること。 ・深澤家住宅に関する諸経費は包括予算対応とする。 ・人員配置については人事ヒアリング対応とする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		重伝建整備事業						担当課		文化財課						
目的	対象	重伝建地区内で建築物等の工事を行う者						施策体系		4-1-2						
	意図	歴史的な町並みの保存と整備を行う。						新規/継続		継続						
手段		設計監理及び工事費の補助						会計区分		一般						
								個別施設計画								
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度								
		○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群 保存地区修理修景			○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群 保存地区修理修景			○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群 保存地区修理修景								
事業費・財源		決算額		(千円)	20,747	決算額		(千円)	18,389	予算額		(千円)	19,973			
		補助金			20,659	補助金			18,294	補助金			19,745			
		その他			88	その他			95	その他			228			
		特定		14,100	一般	6,647	特定		12,470	一般	5,919	特定		13,519	一般	6,454
業務量(人工)		正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規	0.34人	会計年度	0.27人	正規	0.24人	会計年度	0人			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・今年度予定している修理修景事業5件のうち、2件が完了した。 ・重伝建地区内で工事等を行う際には、教育委員会への事前相談を促すチラシを地区内に配布し、制度の周知を図った。
当年度に生じた 新たな問題等	・修理修景事業について、予算枠の上限から全員が希望年度に実施できず、一部先送りをお願いする状況となっている。通常2か年で実施できるところ、3か年以上待たなければならない状況となり、建物の保存意欲の低下を招くことが懸念される。 ・修理修景事業について補助上限額が設けられており、上限額を超過する場合、超過分の事業費は全額事業者の負担となる。工事費が高騰する中、平成3年から上限額を変更していないため、見直しを検討する必要がある。
見直し対象の 補助金等	【内容を見直し継続】 ・国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	建造物の修理修景(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	2	1	2
実績値(事後評価)	4	4	
目標値	5	5	5

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の 方向性	⑤
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・奈良井で修理2件、木曾平沢で修理2件・修景1件の修理修景事業を実施した。 ・令和5年度に実施する事業について、審議会の審議を経て、文化庁へ国庫補助金の申請を行った。 ・令和6年度以降の実施について地元で相談会を開催し、事業実施希望者の取りまとめを行った。
成果	・事業の実施により、地区内の電灯的建造物が適切に保存され、町並み全体の歴史的風致が保たれている。 ・住民の文化財保護意識の向上や地域への愛着・誇りの醸成が図られているほか、観光資源としても活用され、地域の振興に寄与している。 ・相談会の開催により、数年先までの事業予定を把握することができ、計画的な事業実施ができています。
課題	・重伝建地区内において、空き家の購入・居住や、観光関連の補助金を活用しての建物内部の工事など、新たな手法による活用事例が増えてきている。 ・その一方で、こうした活用により伝建地区が持つ本来の歴史的・文化財的価値が損なわれる恐れがあるため、引き続き住民、移住・定住される方、関係者等と協力しながら、地道に伝建制度の重要性を認識いただける取り組みが必要である。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	重伝建整備事業			課名	文化財課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	重伝建地区内で建築物等の工事を行う者			
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる			意図		歴史的な町並みの保存と整備を行う。				
	3-5				手段		設計監理及び工事費の補助				

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景		補助金		24,350		24,350		24,350
			旅費・消耗品費		224		224		224
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		24,574	+0	24,574	+0	24,574
	財源	特定財源			16,652		16,652		16,652
令和7年度	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景		補助金		38,100	▲13,100	25,000		25,000
			旅費・消耗品費		224		224		224
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		38,324	▲13,100	25,224	0	25,224
	財源	特定財源			26,001	▲8,908	17,093		17,093
令和8年度	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景		補助金		25,000		25,000		25,000
			旅費・消耗品費		224		224		224
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		25,224	+0	25,224	+0	25,224
	財源	特定財源			17,093		17,093		17,093
	財源	一般財源			8,131	+0	8,131	+0	8,131

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・事業実施年度の2か年前に事業実施の意思確認、1年前に基本設計(補助対象外)、審議会への諮問、国庫補助申請を行っている。 ・奈良井・木曾平沢それぞれ地区内に600棟以上の建造物があり、今後も町並みを保存していくために、事業者の事業実施意思を尊重し、継続的に事業を行っていく必要がある。
新年度予算要求事項	・本事業は、補助金額にシーリング(25,000千円)を設け事業実施を行っている。コロナ禍で停滞していた時期があったが、最近は実施希望者が増加傾向にあり、令和6年度は一部希望者の事業実施を先送りにする調整を行った。 ・引き続き地域住民の理解のもと、市の施策を遂行できるよう、伝建地区の歴史的町並みの保存整備に取り組むため事業費の確保を要求したい、

○ 査定コメント

第1次査定	・これまでの取り組みや財源配分の考え方から25,000千円が妥当である。この金額内に収まるよう優先順を決めて実施すること。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		檜川地区文化施設運営事業						担当課		文化財課						
目的	対象	市民及び市外からの来館者						施策体系		4-1-2						
	意図	木曾漆器や宿場町の歴史文化等を学習する機会と場を提供する。						新規/継続		継続						
手段		各施設の運営と企画展、講座等を開催する。						会計区分		一般						
年度別 事業内容		令和3年度				令和4年度				令和5年度						
		○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催				○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催						
事業費・財源		決算額		(千円)		14,060	決算額		(千円)		15,600	予算額		(千円)		5,493
		施設管理委託料				1,070	施設管理委託料				1,018	施設管理委託料				1,065
		営繕修繕料				893	会計年度任用職員報酬等				12,286	営繕修繕料				1,700
		会計年度任用職員報酬等				10,139	その他				2,296	印刷製本費				533
		その他				1,958						会計年度任用職員報酬等				
												その他				2,195
		特定	1,959	一般	12,101	特定	2,694	一般	12,906	特定	1,640	一般	3,853			
業務量(人工)		正規	0.07人	会計年度	5.45人	正規	0.07人	会計年度	5.45人	正規	0.10人	会計年度	5.43人			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・地域の食文化を体験する講座として、檜川公民館との共催で朴葉餅作り体験を実施したほか、伝統産業である漆塗り体験講座を開講した。定期的に製作を行い、11月の市民文化祭に作品を展示する予定。 ・木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)を電子データ化する入力作業を継続して行っている。 ・昨年度、倒壊した賛川関所北東側及び南側の柵について、修繕を行った。
当年度生じた新たな問題等	・檜川文化施設(3館)の展示の陳腐化や防犯対策(監視カメラ、非常時の通報等)が不足している。 ・各施設で老朽化対策が必要。(賛川関所:まん幕の新調、中村邸:ウラニカイの漆喰壁にカビが発生しており、文化庁と協議の上、修繕等の措置を講じる、木曾漆器館:正面入口の外壁及び床の劣化、館内誘導灯の修繕) ・漆器館に冷房設備がなく、建物の構造上、熱が逃げにくいため冷房設備の設置が必要。またあり方や活用方法について、今後、産業政策課等と協議検討を行っていく。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	文化施設入館者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4,284	7,593	6,075
実績値(事後評価)	7,622	9,591	13,364	
目標値		16,500	16,500	16,500
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	④
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・新型コロナウイルスの影響で食体験講座は中止としたが、漆塗体験講座、塗箸漆絵付け体験は、感染症対策を講じながら実施した。 ・木曾漆器館に所蔵されている、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」(3,729点)の資料台帳について、紙台帳から電子データへの移行作業を行った。
成果	・文化施設入館者数は昨年度よりも増加し、コロナ禍前の入館者数に戻りつつあり、多くの方に木曾漆器や宿場町の歴史文化等について知ってもらうことができた。 ・体験講座を通じて、伝統工芸である木曾漆器の魅力を伝えるとともに、木曾漆器についての学習機会を提供することができた。
課題	・国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」の資料台帳の電子データ化する入力作業を行っているが、点数が多く、作業工程(入力と写真の撮影と差し込み)も複数あり、時間を要している。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	檜川地区文化施設運営事業			課名	文化財課		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び市外からの来館者				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる					意図	木曽漆器や宿場町の歴史文化等を学習する機会と場を提供する。				
	3－5					手段	施設の運営と企画展、講座等を開催する。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・防犯対策が不備のため対策を講じる。 ・常設展示資料の入れ替えなど、展示内容の見直しを行い、陳腐化・マンネリ化を防ぐ。 ・施設全体に老朽化が見られるため、それぞれの施設の修繕箇所を取りまとめ、計画的に修繕を実施する。	新年度予算 要求事項	・防犯対策について、特に木曽漆器館は、国指定有形民俗文化財の「木曽塗の製作用具及び製品」や人間国宝の作品など貴重な展示品があるにも関わらず、監視カメラがなく、盗難等の恐れがあるため、防犯カメラを設置する。 ・木曽漆器館には冷房設備がなく、労務環境として良くないことから事務室への冷房設備設置を要求する。
--------	--	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営 ○木曽漆器館 正面入口等の塗装修繕	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	檜川地区文化施設(3館)入館者数(人)	14,000	14,000	14,500
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
施設管理委託料		1,065		1,065		1,065
営繕修繕料		300		300		300
印刷製本費		663	▲110	553		553
防犯カメラ設置等工事		834	▲834	0		0
その他		2,664	▲222	2,442		2,442
事業費合計		5,526	▲1,166	4,360	+0	4,360
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	入館料	1,640	1,640		1,640
	一般財源		▲1,166	2,720	+0	2,720

○ 評価コメント

第1次評価	・中村邸の英語版パンフレットはWEBなどを活用することとし印刷は認めない。 ・その他のうち冷暖房設備設置工事は近年の気候変化を考慮し認める。 ・防犯カメラ等設置工事などその他要求は、漆器館の在り方や、経費見直しなどが前提であることから認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	国指定文化財修理事業			課名	文化財課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト		
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	その他	戦略分野			目的	対象	重要文化財所有者および市民				
	施策						意図	文化財の保存・活用を図り、地域の大切な財産として次世代へ継承していく。				
							手段	重要文化財建造物の修理工事等の実施				

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		0	+0	0	+0	0
財源	特定財源						0		0
	一般財源				0	+0	0	+0	0
令和7年度	○重要文化財小松家住宅 ・修理計画策定業務委託		修理計画策定業務委託費		1,000	▲1,000	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		1,000	▲1,000	0	0	0
財源	特定財源						0		0
	一般財源				1,000	▲1,000	0	+0	0
令和8年度	○重要文化財小松家住宅修理工事 ・設計監理 ・修理工事 (屋根葺替、土壁補修、庇修理、防災設備改修)		設計監理費		7,400	▲7,400	0		0
			工事費		74,000	▲74,000	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		81,400	▲81,400	0	+0	0
財源	特定財源				43,100	▲43,100	0		0
	一般財源				38,300	▲38,300	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・小松家住宅は、昭和53年の建物修理、平成8年の屋根修理以降、大規模修理を実施しておらず、各所の傷みや経年劣化が進んでいる。 ・令和元・2年度に実施した、建物の耐震予備診断の結果「大地震動時の倒壊危険性」の判定が出てから時間が経過しており、速やかに耐震補強を実施する必要がある。
新年度予算要求事項	・令和6年度は、小松家住宅個別の保存活用計画を作成する。 ・計画の内容に基づき令和7年度に修理の基本計画策定、概算工事費の算定、補助金申請書類の作成のために必要な修理計画策定業務委託費を計上。 ・令和8～9年度に建物の修理工事、周辺外構工事等を実施したい。

○ 査定コメント

第1次査定	・小松家について、財源や周辺環境を考慮し市民益を前提とした将来的な活用の方向性について部の方向性を定めること。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出遺跡公園事業						担当課		平出博物館				
目的	対象	市民全般						施策体系		4-1-2				
	意図	国史跡である平出遺跡を保存しながら、郷土の歴史・文化・風土を活かした体験型学習を通じたにぎわいの創出を図る。						新規/継続		継続				
手段		歴史的資源である国史跡平出遺跡を適正に保存するとともに、遺跡公園を体験型学習の場として活用し、来園者が郷土の歴史・文化・風土に親しむ機会を提供する。						会計区分		一般				
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度						
		○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理			○体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催 【ひらいでの里魅力づくり事業から移管】						
事業費・財源		決算額		(千円)	7,484	決算額		(千円)	7,217	予算額		(千円)	4,575	
		営繕修繕料			960	需用費			1,861	需用費			2,228	
		その他			6,524	その他			5,356	遺跡まつり実行委員会負担金			950	
										その他			1,397	
		特定		212	一般	7,272	特定		236	一般	6,981	特定		300
業務量(人工)		正規	0.06人	会計年度	2.07人	正規	0.02人	会計年度	1.86人	正規	0.08人	会計年度	2.07人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・復元住居については職員による目視点検を日常的に実施しているが、柱や梁など躯体の状態までは点検できていない。 ・イベントの増加に伴い、博物館友の会や平出遺跡公園協会の、どんぐりの会などボランティア団体に協力を依頼する機会が増えている。
当年度生じた新たな問題等	・ソフト事業を企画、運営する人員が不足している。またイベント時に協力いただいているボランティア団体も高齢化しているため、新たなボランティアを募集し、養成していく必要がある。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	平出遺跡公園来園者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		6,954	10,431	16,369
実績値(事後評価)	17,166	18,540	28,661	
目標値		19,200	21,600	24,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・昨年同様に火起こしや勾玉づくりなどの体験学習のほか、スタンブラリー形式で巡るアドベンチャーinひらいでを開催した。 ・コロナ禍で中止となった遺跡まつりの代替として、復元住居のライトアップイベントや密にならないよう配慮したワイナリーフェスタへの協力を行った。
成果	・アドベンチャーinひらいでは多くの家族連れが参加し、遺跡公園や博物館周辺を学ぶ良い機会となった。 ・ライトアップイベントやワイナリーフェスタには市内外から多くの来訪者があり、平出遺跡の認知度向上を図ることができた。
課題	・専門家が点検をしていない復元住居に多くの来園者が入り、時には子どもが復元住居へ駆け上ろうとする場面もある。事故を防止するために専門的な知見において点検する必要がある。 ・多くのイベント実施に付随する事務量の増加が他業務に支障をきたしており、人員の増加や実施体制の検討が必要である。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	平出遺跡公園事業			課名	平出博物館		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる					意図	5000年人が住み続けている歴史を伝えるとともに、非日常的なにぎわいの場とする。				
	3－5						手段	各種体験型学習の実施や、多種多様なイベントを開催する。				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・遺跡公園の知名度を高め、多種多様なイベントや取り組みを周知するための 広報活動を強化していく。	新年度予算 要求事項	・新たな科目や増額となるものはない。 ・遺跡まつりについては、広く法人からの寄付を募る。
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○遺跡ガイダンス・体験型学習の 開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催	○遺跡ガイダンス・体験型学習の 開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催	○遺跡ガイダンス・体験型学習の 開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	体験型学習参加人数(人)	5,200	5,500	6,000
2	イベント開催数(回)	4	6	8

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
遺跡ガイダンス・体験学習等に要する経費		3,011	▲100	2,911		2,911
維持管理費		1,112		1,112		1,112
ひらいで遺跡まつり実行委員会負担金		950		950		950
				0		0
				0		0
事業費合計		5,073	▲100	4,973	+0	4,973
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	体験学習参加費	300	300		300
	一般財源		4,773	4,673	+0	4,673

○ 評価コメント

第1次評価	・備品修繕料は必要性が確認できないため認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
-------	-------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	平出遺跡公園事業(復元住居等)			課名	平出博物館		新規/継続	新規	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる			意図		5000年人が住み続けている歴史を伝えるとともに、非日常的な憩いの場とする。					
	3-5				手段		各時代の住居や環境を遺跡に基づき復元し、公園として活用					

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○復元住居改修工事 ・工事費 ○復元住居茅葺屋根改修 ・工事費 ○復元住居点検調査		大規模改修工事(J-48)	※	6,090		6,090		6,090
			茅葺屋根改修(J-53)	※	2,860		2,860		2,860
			復元住居点検調査業務委託		500	▲500	0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		9,450	▲500	8,950	+0	8,950
	財源	特定財源			8,000		8,000		8,000
令和7年度	○復元住居改修工事 ・工事費 ○復元住居茅葺屋根改修 ・工事費		大規模改修工事(J-45)	※	6,160		6,160		6,160
			茅葺屋根改修(J-56)	※	2,700	▲2,700	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		8,860	▲2,700	6,160	0	6,160
	財源	特定財源			7,900	▲2,400	5,500		5,500
令和8年度	○復元住居改修工事 ・工事費		大規模改修工事(62号)	※	10,600		10,600		10,600
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		10,600	+0	10,600	+0	10,600
	財源	特定財源			9,500		9,500		9,500
	財源	一般財源			1,100	+0	1,100	+0	1,100

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の 緊急性	・遺跡公園の象徴である復元住居の損傷が著しくなっている。特に柱の損傷が目立つようになり、風の影響を受ける公園において倒壊の危険が懸念される。
新年度 予算 要求 事項	・復元住居改修工事費 見学や資料として公開に適しているものは大規模改修とし、小型のものは見栄えを整える事のみとし、立ち入りしないようにする。

○ 査定コメント

第1次 査定	・令和7年度実施の茅葺屋根改修(J-56)は、自然災害保険により令和5年度補正予算で対応することとし、それ以外は要求のとおりとする。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
-------	-------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		埋蔵文化財保護事業						担当課		平出博物館				
目的	対象	市民全般						施策体系		4-1-2				
	意図	破壊される埋蔵文化財を記録として保存し、後世に伝える。						新規/継続		継続				
手段		開発事業等に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及び整理作業を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図るとともに、劣化が進む埋蔵文化財の修復及び保存処理を行う。						会計区分		一般				
年度別 事業内容		令和3年度 ○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業			令和4年度 ○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○宅地造成事業に伴う床尾中央遺跡発掘調査 ○(仮称)宗賀中央保育園国道線新設改良工事に伴う小怒田遺跡整理調査			令和5年度 ○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○広丘東通線整備事業に伴う内畑遺跡発掘調査 ○協立病院非常用電源設備設置に伴う五日市場遺跡整理調査						
事業費・財源		決算額		(千円)	8,529	決算額		(千円)	8,789	予算額		(千円)	5,153	
		会計年度任用職員報酬等			7,388	会計年度任用職員報酬等			7,902	会計年度任用職員報酬等				
		重機借上料			532	重機借上料			127	重機借上料			500	
		その他			609	その他			760	その他			4,653	
		特定			0	一般	8,529	特定		422	一般	8,367	特定	4,803
業務量(人工)		正規	0.25人	会計年度	2.34人	正規	0.30人	会計年度	0.03人	正規	0.26人	会計年度	2.34人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・地域の歴史や文化に対する関心を高め、理解を深めてもらうため、開発事業者と調整のうえ、市民対象の発掘体験会を実施した。
当年度生じた新たな問題等	・埋蔵文化財包蔵地内において道路改良や宅地造成工事等が実施される件数が増加傾向にあるため、埋蔵文化財発掘調査が増えている。発掘調査を実施できる専門的知識をもった職員が博物館業務も担当しているため、博物館業務と埋蔵文化財業務の両立が必要となり、学芸員への負担が増大している。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	開発等に伴う包蔵地の確認(件)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		82	81	96
実績値(事後評価)	191	228	278	
目標値		150	150	150
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・開発事業に伴う五日市場遺跡(棧敷)の発掘調査を行った。 ・令和3年度に実施した小怒田遺跡(宗賀洗馬)の資料整理を行い、調査報告書を作成した。
成果	・五日市場遺跡は約300㎡を調査したところ、平安時代の住居跡が3軒確認され、貴重な歴史的資源を発見・記録保存することができた。
課題	・地域の大切な地域遺産の保存と継承のため、発掘作業において市民ボランティアに参加いただく発掘体験を実施したいが、事業者とのスケジュール、調査費用が原因者負担となっていることから、実施が難しい状況である。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	埋蔵文化財保護事業			課名	平出博物館		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	埋蔵文化財				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる			意図		適切に保存し、後世に継承していくとともに、歴史文化の理解を深める活用					
	3－5				手段		開発事業等に伴う発掘調査及び整理作業を行うとともに、良好な状態での保存					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・学芸員及び学芸員同等の知識のある職員の採用	新年度予算 要求事項	・新たな科目や増額となるものはない。
--------	------------------------	---------------	--------------------

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○広丘東通線整備事業に伴う内畑遺跡整理調査 ○協立病院駐車場整備に伴う五日市場遺跡整理調査	○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業 ○宅地造成に伴う床尾中央遺跡発掘調査	○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理作業

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	開発等に伴う包蔵地の確認(件)	150	150	150
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
市内遺跡確認調査		657		657		657
市内遺跡整理作業		250		250		250
内畑遺跡整理調査		948		948		948
五日市場遺跡整理調査		1,363		1,363		1,363
				0		0
事業費合計		3,218	+0	3,218	+0	3,218
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	発掘調査委託金・書籍売上	2,371	2,371		2,371
	一般財源		847	847	+0	847

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
-------	-------	-------	----	----	----	------	---------	------

令和5年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造	プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進	施策	2	文化・スポーツを通じたにぎわいの創出
目的	本市に根付いてきた文化資源を生かして、市民や来訪者の交流を促進するとともに、総合体育館を中心に世代を超えてスポーツに親しむ機会を提供することで、地域のにぎわいを創出します。							

2 施策の指標における成果

指標		基準値 基準年度	達成値			目標値
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	文化施設入館者数	36,359人 R1	29,992人	29,513人		38,000人
	スポーツ施設利用者数	434,998人 R1	386,292人	488,670人		575,000人
市民	歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	24.8% R2	25.0%	24.5%		30.0%
	子どもから高齢者まで誰でもスポーツに取り組める環境があると感じる市民の割合	35.8% R2	42.3%	34.9%		50.0%
	週1回以上スポーツ活動を行う市民の割合	31.4% R2	34.5%	30.4%		40.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構 成の変更等に ついて)	・全国短歌フォーラム事業は、関係者の熱意や歌人、全国の投稿者との繋がりがなど長きにわたり培ってきた土壌がある。ここ数年、事業を縮小してきた影響もあり、最低限の事業実施に支障が出始めている。節目の大会となる令和8年度(第40回大会)を期に、一定の結論を出すことが重要と考える。 ・文化財保存活用計画に挙げられている短歌の里としての魅力を発信し、短歌や文学の振興を図るための事業を開催するためコスト拡大とした。 ・自然博物館運営事業は、館運営及び展示資料の充実を図るため、専門知識を有する職員の配置を要望する。 ・新平出博物館整備に向け、気運の醸成を図るため建設予定地周辺での各種イベントを積極的に開催するとともに、より広い視野での施設整備を行うため市内連携を図る。 ・体育施設整備事業を重点化し、中央スポーツ公園・市営野球場の機能維持や樹木の適正管理を継続的に実施し、市民が安心・安全に使用できる環境の維持を図る。
役割分担の 妥当性 (市民や多様な 主体との連携 の方向性につ いて)	・短歌館及び自然博物館運営では協力会や公民館、他の博物館との連携により充実した博物館活動を推進したい。 ・市民説明会やワークショップを開催することで博物館整備の認知度を向上させるとともに、市民が利用したいと思われる博物館づくりに向けた意見集約が重要である。 ・学校部活動の地域移行によりスポーツ関係団体の役割が重要となる。継続的に活動が図られ人材が育成できる組織力の強化が求められる。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ①		文化資源を活用した 交流の促進	手段	博物館等の文化施設の整備、充実を図るとともに、郷土の 歴史・文化・風土を生かした体験型学習の提供やイベント などの開催を通じて、市民の交流活動を支援します。				
番号	施策を構成する 事務事業名	担当課	事業費			重 点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	全国短歌フォーラム事業	社会教育スポーツ課	4,832	5,218	5,540		現状維持	現状維持
2	短歌館運営事業	文化財課	9,419	12,229	11,170		拡充	拡大
3	自然博物館運営事業	文化財課	5,671	9,408	10,570		拡充	拡大
4	自然博物館整備事業	文化財課 平出博物館	－	－	11,440	×	休廃止	皆減
5	平出博物館運営事業	平出博物館	14,377	14,228	16,219		拡充	拡大
6	新平出博物館整備事業	平出博物館	14,377	22,141	435	◎	縮小	縮小
7	本洗馬歴史の里運営事業	平出博物館	514	5,299	6,476	△	現状維持	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和4年度 事後評価

施策指標 の 要因分析	・新型コロナウイルス感染症により、文化施設の入館者数は目標を下回った。また、スポーツ施設利用者は学校施設開放が回復傾向ではあるものの目標を下回った。 ・市民指標についても、感染症の影響により様々な活動が回復しなかったことから目標を下回った。
施策の 定性評価	・短歌フォーラムは近年の状況やアンケート結果から、会場に集まて行う大会を行わず、また、学生の部を廃止した。今後は短歌の里として継続性のある短歌普及をどのように進めるのか検討する。 ・令和元年度から協議をしていた自然博物館の移転は、現在の場所での継続開館が決まった。今後は博物館施設の長寿命化、展示室改修などを検討し、賑わいが創出できる施設を目指す。 ・新平出博物館整備事業については、コンストラクション・マネジメントを取り入れることで総事業費やスケジュールの精度を高めることができた。今後は市民説明会やワークショップを行いつつ事業を推進していく。 ・総合体育館運営はコロナの影響により宿泊や大会の中止が数多くあったが、拠点スポーツ施設として今後も充実した運営に取り組んでいく。中央スポーツ公園は、テニスコートの移転後の既存施設との一定的な活用を図る。

取り組み ②		スポーツによる 多世代交流の促進	手段	施設やスポーツ団体と連携して市民のスポーツ活動を支援するとともに、総合体育館を中心に誰もがスポーツに親しむ機会を創出し、スポーツ活動を通じた多世代の交流を促進します。				
番号	施策を構成する 事務事業名	担当課	事業費			重点 点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	市民スポーツ振興事業	社会教育スポーツ課	360	749	1,080		拡充	拡大
2	競技力向上事業	社会教育スポーツ課	14,694	16,756	20,266		拡充	現状維持
3	体育施設管理運営事業	社会教育スポーツ課	39,555	44,497	53,238	○	拡充	拡大
4	総合体育館運営事業	社会教育スポーツ課	110,600	104,845	104,744	△	拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

評価者	所属	生涯学習部		職名	部長	氏名	胡桃 慶三					
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋	所属	文化財課	氏名	中村 琴江	所属	平出博物館	氏名	小松 学

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		全国短歌フォーラム事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民及び全国の短歌愛好者						施策体系		4-2-1			
	意図	短歌を通じて、日本語の美しさ、素晴らしさを全国に発信し、塩尻市をPRする。						新規/継続		継続			
手段		・全国短歌フォーラムin塩尻の開催 ・検索・閲覧コンテンツ構築						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度 ○全国短歌フォーラムin塩尻の開催 (第35回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル 化				令和4年度 ○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第 36回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化				令和5年度 ○全国短歌フォーラムin塩尻の開催 (第37回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル 化			
事業費・財源		決算額		(千円)	4,832	決算額		(千円)	5,218	予算額		(千円)	3,850
		資料デジタル化委託料		37	資料デジタル化委託料		97	資料デジタル化委託料		100			
		全国短歌フォーラム事業負担金		3,741	全国短歌フォーラム事業負担金		3,741	全国短歌フォーラム事業負担金		3,750			
		その他		1,054	その他		1,380	その他		0			
		特定	11	一般	4,821	特定	18	一般	5,200	特定	23	一般	3,827
業務量(人工)		正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規	0.62人	会計年度	0.70人	正規	0.62人	会計年度	0.69人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題 等に対する 取組状況	・今後の短歌フォーラムの在り方を検討するアンケート結果等を踏まえ、今後は集まる形式の大会は開催せず、書面での開催に切り替えた。 ・「学生の部」を廃止としたが、市の文化である短歌に学生が触れ、発表する場として市内学生向け短歌大会の開催を計画している。 ・「ティータイムに短歌を作ろう」を開催し、市内外から5名の参加があった。
当年度生じた新 たな問題等	・投稿数が昨年度に比べて減少した。はっきりした理由は不明であるが、会場での大会を止めたこと、投稿者の高齢化による投稿できなくなったなどが考えられる。 ・投稿数の減少により、大会運営予算の確保が難しくなっている。
見直し対象の 補助金等	【現行継続】 ・全国短歌フォーラム事業負担金

○評価指標

評価指標(単位)	一般の部市内投稿者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		141	113	100
実績値(事後評価)	187	141	113	
目標値		190	190	190
評価指標(単位)	一般の部大会参加者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		-	-	-
実績値(事後評価)	-	-	-	
目標値		-	-	600

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の 方向性	⑤
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・今後の短歌フォーラムの在り方をアンケート結果を踏まえ検討し、今年度の第37回大会から会場での大会は行わず、書面開催に変更し、また、「学生の部」の廃止を決定した。 ・広丘小学校と共同で「短歌の里みてある記」を実施、塩尻短歌館と共催で「塩尻短歌館開館30周年記念シンポジウム」を開催した。
成果	・全国短歌フォーラムin塩尻 一般の部には、973名の投稿があり、学生の部には、12,414名の投稿があった。 ・「短歌の里みてある記」には、広丘小学校6年生の保護者と一般13名の参加があった。 ・「塩尻短歌館開館30周年記念シンポジウム」には、80名の参加があった。
課題	・「学生の部」は廃止としたが、市内学校では短歌学習に力を入れており、学生が短歌に触れて、発表する機会は重要である。市内学生を対象とした学生短歌大会の企画を検討したい。 ・短歌人口拡大のためには、若年層へのアプローチが必要である。新たな方法で講演会、イベントを企画していく必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	清水 柚果	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	全国短歌フォーラム事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び全国の短歌愛好者			
	施策	文化芸術に触れ、活動する機会がある			意図		短歌を通じて、日本語の美しさ、素晴らしさを全国に発信し、塩尻市をPRする。				
	3-2				手段		全国短歌フォーラムin塩尻の実施、過去資料のデジタル化				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・新型コロナの制限が緩和されたことを受け、参加型イベントや講演会などのイベントを通じ、より短歌を身近に感じ、短歌に関心を持つ環境と機会を提供していくことで地域の短歌文化を継承する。	新年度予算 要求事項	・全国短歌フォーラムへの投稿者数の減少により、負担金の増額を行わなければ、短歌フォーラム事業継続が難しいため、負担金を増額させたい。
--------	--	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第38回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化	○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第39回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化	○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第40回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	全国短歌フォーラムin塩尻市内投稿者数(人)	115	130	145
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
全国短歌フォーラム事業負担金		4,261	▲511	3,750		3,750
全国短歌フォーラム資料のデジタル化		100		100		100
その他				0		0
				0		0
				0		0
事業費合計		4,361	▲511	3,850	+0	3,850
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	生涯学習書籍売上代	23	23		23
	一般財源		4,338	▲511	3,827	+0

○ 評価コメント

第1次評価	・短歌フォーラム事業負担金の増額は、内容を精査するなどして工夫をして行うものとし増額は認めない。 ・第六次総合計画期間において終期の設定や短歌館と事業の統合を図るなどを検討すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	清水 柚果	連絡先(内線)	3136
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名				短歌館運営事業				担当課		文化財課					
目的	対象			市民及び市外からの来館者				施策体系		4-2-1					
	意図			「短歌の里塩尻」を全国に発信するとともに、短歌を通じ芸術文化の推進を図る。				新規/継続		継続					
手段				遺品・著書等の展示と資料収集・整理保管、短歌大学・企画展の開催				会計区分		一般					
年度別 事業内容				令和3年度		令和4年度		令和5年度							
				○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営 ○開館30周年記念行事		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の収集・整理 ○短歌館の管理運営							
事業費・財源				決算額 (千円)		9,419	決算額 (千円)		12,229	予算額 (千円)		4,492			
				講師謝礼		678	講師謝礼		615	講師謝礼		555			
				営繕修繕料		417	営繕修繕料		2,411	営繕修繕料		200			
				害虫駆除委託料		484	会計年度任用職員報酬等		5,604	会計年度任用職員報酬等					
				会計年度任用職員報酬等		4,812	その他		3,599	その他		3,737			
				その他		3,028									
				特定		298	一般	9,121	特定	337	一般	11,892	特定	335	一般
業務量(人工)				正規	0.08人	会計年度	2.57人	正規	0.08人	会計年度	2.57人	正規	0.10人	会計年度	1.86人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・短歌大学3回と企画展(書道展)を1回開催。短歌文化に関する事業を実施した。 ・吉田地区にある「歌人の散歩道」の看板について、吉田一区と同地区の育成会と連携して、看板の修繕を実施した。
当年度生じた新たな問題等	・広丘地区には「歌人の散歩道」というウォーキングコースが整備されているが、年数の経過に伴いコース上の看板に老朽化がみられるため、地域住民との連携を図りながら、修繕や活用方法の検討を図っていく必要がある。 ・幅広い年代に興味関心を持ってもらうためのイベントや講座、短歌大学の開催について関係課や団体との連携が必要。 ・施設老朽化及び消防設備不具合等に伴う修理修繕(消火器8本更新、防火扉連動制御器、開館時から変えていない量の表替え)また、収蔵資料の害虫駆除等のため、燻蒸を3年に1度実施しており、来年度が実施年となる。 ・赤彦寓居移築先の松林には枯れ枝が多くあり、枝落下による寓居屋根の破損が懸念されている。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	企画展・講座等の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		5	6	4
実績値(事後評価)	5	14	14	
目標値		15	15	15
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・島木赤彦寓居移築工事竣工式、短歌館開館30周年記念シンポジウム及び記念講演会、春・夏・秋の企画展、塩尻短歌大学、百人一首講座、春待ちコンサート、百人一首大会等の事業を実施した。 ・短歌館外壁工事や館内照明のLED化、非常灯のバッテリー交換等を実施した。
成果	・事業はほぼ予定通り実施することができた。中でも30周年記念事業の実施は、参加者や地元住民が短歌館や短歌文化を大切な地域文化として守り・伝えていく心の醸成につながった。 ・登録有形文化財である短歌館の修繕や整備を行い、文化財として、また、博物館施設としての機能維持を図ることができた。
課題	・移築・開館後30年が経過している中で、建物内のエアコンや畳などに老朽化等が見られるため、引き続きメンテナンスや更新が必要となっている。 ・百人一首講座は募集定員に達しなかったため、回数を減らし実施した。内容の見直しや募集の工夫が必要となっている。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	短歌館運営事業			課名	文化財課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び市外からの来館者			
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に			つながり、相互に知る機会が得られる		意図	短歌を学習する機会と場を提供する。			
	3－5						手段	施設の運営と企画展、講座等を開催する。			

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・短歌館単独ではなく、地域と連携して短歌文化の醸成を図る事業に取り組む。(短歌の里周辺のマップや看板の整備など) ・市民の皆さんに短歌の魅力を再発見してもらうとともに、短歌の奥深さや関心を更に高めていただくための本市ゆかりの歌人に関する映画上映を行う。	新年度予算 要求事項	・短歌の魅力を再発見するため、市内にゆかりのある歌人馬場あき子氏を題材とした映画上映会を行うための経費を要求する。 ・消防設備修繕及び消火器8本が使用期限を迎えるため新たに購入する。 ・収蔵資料の害虫駆除等のため、燻蒸を3年に1度実施しているが、来年度が実施年となるためその経費を要求。赤彦寓居の周辺整備として樹木の枯れ枝伐採委託料を計上。
--------	---	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催 ○樹木管理	○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催 ○樹木管理	○各館の管理運営 ○企画展、講座等の開催

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	短歌館入館者数	3,000	3,000	3,200
2	企画展・講座等の開催数(回)	16	16	16

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼			580	▲25	555		555
資料の収集・整理			200		200		200
害虫駆除委託料			539		539		539
短歌館の管理運営			3,569	▲639	2,930		2,930
樹木管理委託料(通常管理も含む)			780	▲500	280		280
事業費合計			5,668	▲1,164	4,504	+0	4,504
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	入館料等	335		335		335
	一般財源		5,333	▲1,164	4,169	+0	4,169

○ 評価コメント

第1次評価	・定期的害虫駆除(燻蒸)を認める。 ・樹木管理委託料で高所作業車を使用する松せん定は、まず既決予算で優先的に対応すること。さらに、広丘小学校児童の安全確保の視点から教育総務課の予算で実施できないか調整することとし増額は認めない。 ・映画上映は開催方法など効果が小さいため認めない。 ・その他所消耗品など増額は既存予算規模の中で調整すること。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		自然博物館運営事業						担当課		文化財課			
目的	対象	市民及び市外からの来館者						施策体系		4-2-1			
	意図	自然を学ぶ学習の機会と場を提供する。						新規/継続		継続			
手段		企画展、自然科学講座、自然観察会等の開催、館報の発行を行う。						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営					
事業費・財源		決算額		(千円)	5,671	決算額		(千円)	9,408	予算額		(千円)	3,423
		印刷製本費			415	印刷製本費			317	印刷製本費			415
		標本同定作業等委託料			1,394	標本同定作業等委託料			1,398	標本同定作業等委託料			1,400
		企画展示等委託料			100	企画展示等委託料			350	企画展示等委託料			350
		会計年度任用職員報酬等			2,637	会計年度任用職員報酬等			6,350	会計年度任用職員報酬等			
		その他			1,125	その他			993	その他			1,258
		特定	346	一般	5,325	特定	747	一般	8,661	特定	630	一般	2,793
業務量(人工)		正規	0.07人	会計年度	2.16人	正規	0.00人	会計年度	3.00人	正規	0.11人	会計年度	1.96人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・専門知識を持つ職員の採用に至らなかったが、自然に興味のある会計年度任用職員の採用や元館長の協力を得ながら講座、観察会等を実施した。(講座1回、自然観察会4回、企画展2回実施) ・標本のデータベース化が順調に行われており、サイエンスミュージアムネットへの登録申請も実施することができた。
当年度生じた新たな問題等	・リニューアルした小坂田公園内にある立地条件を生かした事業展開が求められる。自然博物館の昆虫標本を主とする収蔵品の扱い方や展示・保管の方法、事業の実施などについて、専門的知識を持つ職員の配置が必要。 ・小坂田公園は自然博物館以外の施設が指定管理者による運営体制となり、来年度より館の電気代は文化財課での予算化が必要となった。そのため、電気使用料計測の電気子メーターを取り付ける必要がある。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

○評価指標

評価指標(単位)	自然博物館の入館者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		2,335	4,996	5,674
実績値(事後評価)	7,718	2,335	8,395	
目標値		6,800	6,800	6,800
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・昨年度は小坂田公園再整備工事により、年度途中から閉館としたが、今年度は年間を通して開館することができ、事業も自然観察会、企画展、自然科学講座を実施できた。 ・国立科学博物館主管のサイエンスミュージアムネットに収蔵標本6,400件を登録申請したほか、収蔵資料の同定作業を行った。
成果	・入館者数はコロナ禍前の水準まで戻すことができた。事業もコロナ禍前とほぼ同規模で開催でき、多くの方に自然を学ぶ機会と場を提供することができた。 ・サイエンスミュージアムネットへの資料登録により、収蔵資料の情報が世界中に発信され、共有が図られる。
課題	・収蔵標本データベース化は、収蔵標本が約55,000点あることから今後も継続的な取り組みが必要である。 ・魅力ある博物館の運営をしていくためには、収集保管・調査研究・教育普及・展示公開といった事業をトータルで実施していく必要があり、自然分野の専門知識を持つ職員の配置が必要である。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	自然博物館運営事業			課名	文化財課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び市外からの来館者			
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる			意図		自然を学ぶ学習の機会と場を提供する。				
	3-5				手段		企画展、自然科学講座、自然観察会等の開催、館報の発行を行う。				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・学芸員または学芸員同等の知識のある職員の採用 ・収蔵資料把握のため、同定作業を引き続き実施し、国立科学博物館のS-netに登録を行い、全世界の研究者・機関等との資料の情報共有を図る。 ・展示が陳腐化しているため、常設展示の整備に向けた検討を行う。 ・小坂田公園指定管理者と連携したイベントまたは講座を開催する。	新年度予算 要求事項	・昆虫や生物・自然に関する専門知識を持つ職員を採用したい。 ・新年度より担当課で負担することとなる、自然博物館の電気料及び電気使用量把握のための子メーターの設置費用を新たに予算要求したい。 ・小坂田公園指定管理者との合同イベント事業費用を要求する
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○企画展、学習講座等の開催 (小坂田公園指定管理者との合同事業含) ○資料の整理 ○館の管理運営	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	自然博物館の入館者数(人)	9,000	9,000	9,200
2	企画展・学習講座の開催数(回)	12	12	12

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
企画展展示等委託料			450	▲100	350		350
標本同定作業等委託料			1,400		1,400		1,400
電気子メーター取付費			251	▲251	0		0
自然博物館電気代			3,000	▲3,000	0		0
その他諸経費			1,644	+32	1,676		1,676
事業費合計			6,745	▲3,319	3,426	+0	3,426
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	入館料等	630		630		630
	一般財源		6,115	▲3,319	2,796	+0	2,796

○ 評価コメント

第1次評価	・自然博物館電気代は、都市計画課で歳出の小坂田公園指定管理料に含まれ令和6年度まで精算方式で行うことから、この事業での予算計上は認めない。 ・令和7年度以降の電気代から予算計上することとし、根拠となる電気子メーター取付は令和5年度予算流用により前倒しで行うこと。 ・企画展等その他は既存予算規模の中で工夫すること。 ・人員配置については人事ヒアリング対応とする。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	櫻山 博史	連絡先(内線)	3134
-------	-------	------	------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		自然博物館整備事業						担当課		文化財課・平出博物館				
目的	対象	市民全体						施策体系		4-2-1				
	意図	自然を学ぶ機会と場の提供をすることで、自然に対する正しい知識と関心を高める。						新規/継続		新規				
手段		小坂田公園内の現施設での運営を継続し、現施設の外壁改修工事と収納棚増設を実施する。						会計区分		一般				
								個別施設計画						
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度						
								○外壁改修工事 ○収納棚増設						
事業費・財源		決算額		(千円)		- 予算額		(千円)		- 予算額		(千円)		11,440
										外装改修		9,053		
										収納棚増設		2,387		
		特定		一般		特定		一般		特定	8,100	一般	3,340	
業務量(人工)		正規	0.09人	会計年度	0.00人	正規		会計年度		正規	0.09人	会計年度	0.00人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・老朽化した外装等の改修工事を実施するため、8月に入札を行った。工事は下半期の9月～12月にかけて実施する。
当年度に生じた 新たな問題等	・専門性を持つ職員を配置するため昨年度職員の公募を行ったが、求める人材が確保できなかった。そのため、専門知識に基づいた展示の構成内容等についての検討が進められていない状況である。
見直し対象の 補助金等	

○評価指標

評価指標(単位)	実施設計(建築・展示)及び工事の進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	0
実績値(事後評価)		0	
目標値		0	100

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の 方向性	⑦
	効率性	3	やや高い	成果	休廃止
総合評価		D		コスト	皆減

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・今後も現施設での運営を継続することとなったため、施設の長寿命化や、収蔵庫の不足を解消する方法について検討を行った。
成果	・現施設の長寿命化としての外装改修工事経費や、資料収蔵スペース不足解消のための収蔵棚増設経費の予算計上を行うことができた。
課題	・専門性を持つ職員の配置など人的な体制等を整えた上で、多くの方が訪れる魅力ある施設としていくため、今後、展示の構成内容等について改めて検討し、整備していく必要がある。

作成担当者	生涯学習部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長		氏名	中村 琴江	担当係長	文化財係長		氏名	塩原 真樹

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		平出博物館運営事業						担当課		平出博物館			
目的	対象	市民全般						施策体系		4-2-1			
	意図	文化の振興を図り、地域資源を活用した学びの機会を提供するとともに、交流活動を促進し、地域づくり人づくりに寄与する。						新規/継続		継続			
手段		地域の歴史や文化に親しみ学ぶことができるよう、平出遺跡をはじめ市内の考古・歴史遺産等を活用した事業を行う。						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営			○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営					
事業費・財源		決算額		(千円)	14,377	決算額		(千円)	14,228	予算額		(千円)	11,304
		需用費			4,711	需用費			7,065	需用費			6,428
		委託料			1,596	委託料			1,551	委託料			2,129
		DX化事業委託料			2,475	その他			5,612	その他			2,747
		その他			5,595								
		特定	685	一般	13,692	特定	829	一般	13,399	特定	707	一般	10,597
業務量(人工)		正規	1.01人	会計年度	0.80人	正規	0.92人	会計年度	0.46人	正規	1.00人	会計年度	0.80人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・市内小学校に対し、博物館への社会見学に関してアンケート調査を行ったところ、移動手段がないため実施することができないとの意見が多かった。博物館事業として庁用バスを活用した見学会を促したところ、1校から申し込みがあった。
当年度生じた新たな問題等	・様々なテーマを設定し講座・講演会等を実施しているが、多くの市民にとって博物館が身近な存在となっておらず、博物館に「来館していただく魅力」が不足していると感じる。 ・日中、日当たりが望めないため、湿度が高くカビが発生しやすい環境。来館者からカビ臭いという声を多くいただいております、何らかの対策が必要。 ・4月に新博物館法が施行され、「博物館資料に係る電磁的記録の作成・公開」に関する規定が整備される等、博物館が有する多様なコンテンツのデジタル・アーカイブ化を加速させる必要性が高まっている。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		1,992	2,322	1,650
実績値(事後評価)	4,063	4,240	5,148	
目標値		4,800	5,400	6,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・企画展や講座・講演会を開催した。出張展示をえんぱーくやえんてらすなどで開催した。 ・明かりを落とした夜の博物館をめぐる「ひらいでナイトミュージアム」を実施した。
成果	・企画展には延べ1,727人、講座・講演会には延べ112人の来館があり、市の文化遺産を学ぶ機会を提供することができた。 ・出張展示では多くの人に土器をはじめとした資料を身近な施設で見る機会を創出することができた。
課題	・市内の小学生の社会見学の機会が減っており、歴史の授業に合わせて、地域の文化遺産を知ってもらう手法を検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	平出博物館運営事業			課名	平出博物館	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に			つながり、相互に知る機会が得られる		意図	地域遺産を扱う身近な博物館として、学びの場として活用				
	3-5						手段	企画展や講座・講演会の開催、社会見学、公民館講座の開催				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・新博物館法において「博物館資料に係る電磁的記録の作成・公開」に関する規定が整備されたことを踏まえ、博物館及び本洗馬歴史の里資料館、短歌館、木曾漆器館、中村邸、古田晃記念館の資料についてデジタルデータベース化を含むデジタル・アーカイブ化に取り組む。	新年度予算 要求事項	・デジタル・アーカイブ化にあたっては、文化芸術振興費補助金「Innovate MUSEUM事業（MuseumDX推進事業）」を活用し、システム構築とデータベース化を行う。
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営 ○デジタル・アーカイブ化業務委託	○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営	○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持・管理・運営

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	入館者数(人)	6,300	6,600	6,900
2	企画展・講座・講演会開催数(回)	5	7	10

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
需用費			6,432	▲100	6,332		6,332
委託費			2,129		2,129		2,129
デジタル・アーカイブ化業務委託			30,500		30,500		30,500
その他			2,876		2,876		2,876
					0		0
事業費合計			41,937	▲100	41,837	+0	41,837
財源内訳	国庫支出金	Innovate MUSEUM事業	30,000		30,000		30,000
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	入館料・書籍等売上代	707		707		707
	一般財源		11,230	▲100	11,130	+0	11,130

○ 評価コメント

第1次評価	・デジタルアーカイブ化業務委託は、国庫支出金の採択を前提とし、不採択時は凍結する。 ・備品修繕料は経費の必要性が確認できないため認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
-------	-------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		新平出博物館整備事業						担当課		平出博物館			
目的	対象	市民全体						施策体系		4-2-1			
	意図	後世に継承すべき文化財の適正な保護環境の構築及び文化資源を活用した交流活動の促進						新規/継続		新規			
手段		建設後60年以上が経過し、様々な管理上の課題を抱える平出博物館を、歴史的遺産の確実な保全と継承を図り、文化資源を活用した新たな交流・学習・集客の拠点として整備する。						会計区分		一般			
								個別施設計画		○			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○基本計画策定			○不動産鑑定 ○用地測量 ○CM委託			○基本計画策定委員会の開催 ○歴まち計画策定協議会の開催 ○先進地視察					
事業費・財源		決算額		(千円)	514	決算額		(千円)	22,141	予算額		435	
		検討委員会委員報酬			274	不動産鑑定委託料			0	事務費		435	
		その他			240	調査測量等委託料			0				
						CM委託料			12,540				
						基本計画策定委託料(繰越)			9,020				
						その他			581				
				特定	0	一般	514	特定	0	一般	22,141	特定	0
業務量(人工)		正規	1.12人	会計年度	0.00人	正規	1.97人	会計年度	0.00人	正規	1.60人	会計年度	0.00人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・新たな補助金の可能性としてデジタル田園都市国家構想交付金の検討を始め、県を通じて協議している。
当年度に生じた 新たな問題等	・博物館機能だけではない公園との一体化やその活用についての検討や、補助金の要綱となる計画策定など、現在の人員で行うことが困難となっている。
見直し対象の 補助金等	

作成担当者	生涯学習部 平出博物館				職名	係長	氏名	大塩 由香		連絡先(内線)	5592	
最終評価者	平出博物館長			氏名	小松 学		担当係長	平出博物館係長		氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	基本計画・設計進捗率(%)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	4.3	28.3
実績値(事後評価)	3.2	28.3	
目標値	6.5	22.8	100.0

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	⑥
	効率性	2	やや低い	成果	縮小
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・基本計画策定委員会を1回開催し、「みんなの博物館」となるよう検討した。また市民のニーズや意見反映のため、市民アンケート調査を実施した。 ・基本計画(案)について専門業者と共に策定を進めた。 ・歴史的風致維持向上計画策定に向け、協議会を1回開催した。
成果	・基本計画策定委員会では様々な見地から検討することができた。 ・基本計画策定にあたり、専門業者のアドバイスにより総事業費やスケジュールの精査をしたことにより、精度の高い計画にすることができた。 ・市民意見の把握ができ、基本計画へ反映することができた。
課題	・基本計画は令和4年度中に策定予定だったが、市民アンケート調査の実施により令和5年度になる見込みとなった。 ・スケジュールは当初計画より延びているが、さらに市民説明会の開催や聞き取り調査を実施する必要がある。 ・社会資本整備総合交付金の補助要件となる歴史的風致維持向上計画の策定が必要となり、それ以外の財源についても、さらに検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	新平出博物館整備事業			課名	平出博物館	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民			
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に つながり、相互に知る機会が得られる			意図		にぎわいの場となることで、新たなコミュニティが形成され地域が活性化する。				
	3-5				手段		博物館整備とともに遺跡公園の一体的な利活用を促す。				

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○平出博物館整備事業 ・測量調査委託 ・試掘調査 ・CM業務委託 ・基本設計委託(建築) ・基本設計委託(展示)	測量調査委託		20,710	▲20,710	0		0
		試掘調査		※ 2,650	▲2,650	0		0
		CM業務委託		19,287	▲19,287	0		0
		基本設計(建築)		6,510	▲6,510	0		0
		基本設計(展示)		2,210	▲2,210	0		0
		事業費合計		51,367	▲51,367	0	+0	0
	財源	特定財源		1,320	▲1,320	0		0
令和7年度	○平出博物館整備事業 ・基本設計委託(建築) ・基本設計委託(展示) ・実施設計委託(建築) ・実施設計委託(展示) ・CM業務委託	基本設計(建築)		33,276	▲33,276	0		0
		実施設計(建築)		※ 23,770	▲23,770	0		0
		基本・実施設計(展示)		13,270	▲13,270	0		0
		地質調査・手数料		3,590	▲3,590	0		0
		CM業務委託		23,085	▲23,085	0		0
		事業費合計		96,991	▲96,991	0	0	0
	財源	特定財源		21,335	▲21,335	0		0
令和8年度	○平出博物館整備事業 ・用地取得費 ・実施設計委託(建築) ・実施設計委託(展示) ・建築工事 ・展示工事 ・CM業務委託 ・手数料及び負担金	用地取得費		※ 216,720	▲216,720	0		0
		実施設計(建築・展示)		※ 59,444	▲59,444	0		0
		建築工事・展示工事		※ 244,400	▲244,400	0		0
		CM業務委託		※ 23,199	▲23,199	0		0
		手数料・負担金		10,364	▲10,364	0		0
		事業費合計		554,127	▲554,127	0	+0	0
	財源	特定財源		490,145	▲490,145	0		0
	源	一般財源		63,982	▲63,982	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・現博物館の老朽化や災害危険区域という立地環境のため、人的物的被害が発生する前に早急に施設を移転整備する必要がある。 ・市民の声を反映した基本計画に基づき、新博物館施設はもとより周辺の遺跡公園も活用した整備が必要。
新年度予算要求事項	・新博物館整備の諸条件の整理 地形測量、用地測量、地質調査、不動産鑑定埋蔵文化財試掘調査 ・基本設計発注に向けた検討 CM業務委託 (発注戦略、仕様書作成、プロポーザル等) ・基本設計委託(債務負担) 建築及び展示

○ 査定コメント

第1次査定	・基本計画の積算時と比べ、物価高騰等により事業費が2億円余増加し、今後の推移も見通しがつかない。また財源精査の結果、社資の内示率低下や補助対象の限定が確実に見込まれるとともに、デジタル田園都市交付金の併用は極めて困難であり、一般財源が最大で15億円余の見込みとなる情勢変化により、財源の見通しがたたないことから、第1期中期戦略に計上することはできない。 ・確実に財源を確保できる手法を再考することが必要があり、整備事業全体の再検討を改めて判断する。
第2次査定	・基本計画策定時と情勢変化があることから、PFIによる整備や、既存施設の廃止も含んだ計画と公共施設集約化債の活用等を検討することとする。 ・用地測量など手戻りのない事務のみ進めることとする。

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	係長	氏名	大塩 由香	連絡先(内線)	5591
-------	-------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		本洗馬歴史の里運営事業						担当課		平出博物館			
目的	対象	市民全般						施策体系		4-2-1			
	意図	地域固有の文化的資源の魅力や意義を市内外に発信することで、資源を活用した交流を促進する。						新規/継続		継続			
手段		洗馬固有の地域文化を継承するために資料調査及び収集保管するとともに、市民が歴史や文化に親しみを持てるよう、地域や学校と連携し、講座や企画展を開催する。						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度				令和4年度				令和5年度			
		○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○資料の収集・保管			
事業費・財源		決算額		(千円)	5,639	決算額		(千円)	5,299	予算額		(千円)	2,996
		講師謝礼			105	講師謝礼			117	講師謝礼			138
		需用費			1,159	需用費			1,173	需用費			1,510
		会計年度任用職員報酬等			3,054	会計年度任用職員報酬等			3,082	会計年度任用職員報酬等			
		その他			1,321	その他			927	その他			1,348
		特定	101	一般	5,538	特定	77	一般	5,222	特定	136	一般	2,860
業務量(人工)		正規	0.04人	会計年度	0.96人	正規	0.03人	会計年度	1.29人	正規	0.03人	会計年度	1.29人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・事業への参加者募集等に関して広報やチラシによるPRに頼っていたが、平出博物館が行っているインスタグラムに本洗馬資料館の記事も積極的に掲載し、幅広い年齢層へもPRする取り組みを行っている。
当年度生じた新たな問題等	・洗馬地域を中心に地場産業として行われていた洗馬焼をはじめとする陶芸について学ぶ機会として陶芸教室を行い、復元された洗馬焼や兵衛窯や穴窯などで活用して焼成作業を行っているが、今後窯の維持管理を行える人材の確保が困難となることが想定されるため、事業の在り方について検討する必要がある。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	平出博物館係長	氏名	大塩 由香	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		1,496	938	598
実績値(事後評価)	1,362	2,130	1,364	
目標値		1,600	1,800	2,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	③
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・企画展、釜井庵寺子屋塾、また洗馬公民館との共催により講演会を開催した。 ・洗馬焼の振興のため、レベルに応じた4つの体験教室を開催した。
成果	・洗馬地区にゆかりのある人物や事柄にスポットを当てた企画展や講演会を行い、地域遺産への知識がより深いものとなり、地域のにぎわい創出に寄与することができた。
課題	・講演会への参加者が高齢化しているため、若年層にも興味を持ってもらえるテーマや発信方法を検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	本洗馬歴史の里運営事業			課名	平出博物館		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅳ 安心安全なまちで未来を支える
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	文化財などが知られ、保存されるとともに、他分野と横断的に			手段		意図	洗馬地区独自の歴史文化の周知				
	3-5	つながり、相互に知る機会が得られる					企画展、講座・講演会の開催、洗馬焼体験の実施					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・維持管理に労力を要する登り窯は、見せる窯として現状維持に努め、洗馬焼をはじめとする陶芸を学ぶ機会の創出として開催する陶芸講座は、ガス窯による焼成を主として行い、開催回数を増やす。	新年度予算 要求事項	・新たな科目や増額となるものはない。
--------	--	---------------	--------------------

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施	○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施	○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	来館者数(人)	1,800	1,900	2,000
2	企画展・講座・講演会の開催数(回)	5	6	7

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼			138		138		138
需用費			1,610	▲100	1,510		1,510
その他			1,122		1,122		1,122
					0		0
					0		0
事業費合計			2,870	▲100	2,770	+0	2,770
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	入館料、使用料	105	+31	136		136
	一般財源		2,765	▲131	2,634	+0	2,634

○ 評価コメント

第1次評価	・備品修繕料は必要性が確認できないため認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	平出博物館	職名	主任	氏名	牧野 令	連絡先(内線)	5592
-------	-------	-------	----	----	----	------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名				市民スポーツ振興事業				担当課		社会教育スポーツ課															
目的	対象	スポーツをする市民						施策体系		4-2-2															
	意図	市民の体力作りに対する意識の向上と運動の習慣づけ、多様化するスポーツに対するニーズへの対応を図る。						新規/継続		継続															
手段		社会体育指導者等の資質向上のための教室やスポーツイベントの事業を実施する。						会計区分		一般															
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度																
	○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業				○スポーツ教室等の開催 ○松本山雅フェスティバル事業				○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業																
事業費・財源	決算額		(千円)		360		決算額		(千円)		749		予算額		(千円)		1,080								
	松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金				松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金				松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金																
	0				500				500																
	その他				360				北信越中学校総合競技大会負担金				国民スポーツ大会先進地視察												
									100				77												
								その他				149				その他				503					
		特定		0		一般		360		特定		0		一般		749		特定		0		一般		1,080	
業務量(人工)		正規		0.05人		会計年度		0.00人		正規		0.05人		会計年度		0.00人		正規		0.11人		会計年度		0.15人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・松本山雅フェスティバルは、実行委員会の開催に対する思いが強く、コロナ禍前の規模での開催を強く求められている。 ・スポーツイベントの検討については、検討委員を継続しているが、本年度から外部人材(塩尻Cxo lab)の協力により、新たな塩尻の地域資源を活かしたスポーツイベントの開催について議論を進めている。
当年度生じた新たな問題等	・指導者講習は、今後の学校部活動地域移行の動向を見据え、指導者モラルなど基本事項の実施を検討する必要がある。 ・松本山雅フェスティバル実行委員会の事務局については、継続した検討が必要である。フェスティバルは事業費の大部分が市の負担金となっており、コロナ禍以前のような規模で開催する場合、大幅な負担金の増額が必要となる。 ・国民スポーツ大会の準備に向けた課題を整理し、体制を早期に固める必要がある。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金

○評価指標

評価指標(単位)	各種スポーツ教室の参加人数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	0	100
実績値(事後評価)	0	0	0	
目標値		30	30	30
評価指標(単位)	松本山雅フェスティバル参加団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		0	8	0
実績値(事後評価)	8	0	0	
目標値		8	8	8

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・スポーツ教室はコロナ禍により実施できなかった。 ・松本山雅フェスティバルは、コロナ感染状況を見ながら県内8チームによる大会を実施した。
成果	・松本山雅フェスティバルは、市内2チームを含む県内8チームの子どもたちによる試合が展開された。参加者には、ブドウの配布や漆塗りのメダルの授与により、塩尻のPRを図ることができた。
課題	・指導者向けスポーツ教室は、内容が多岐に渡るためニーズを把握し、適任講師を検討する必要がある。 ・松本山雅フェスティバルの主管については、引き続き検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	市民スポーツ振興事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	スポーツをする市民			
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる			意図		市民のスポーツ・体力づくりに対する意識向上により運動の習慣づけを図る。				
	3－4				手段		講習会やイベントを開催する。				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・各種イベントや講習会はコロナ前と同等規模での開催を検討し、外部人材とも連携しつつ、地域資源を生かしたスポーツを通じた交流の場の創出を図る。 ・令和10年に長野県開催が内定している国民スポーツ大会の準備を進める。 ・スポーツ活動支援事業を統合し、効率化を図る。	新年度予算要求事項	・学校部活動の地域移行に伴い、指導者全般に係わる基礎的な講習会を充実させていく必要がある。
--------	--	-----------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助	○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助	○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	講習会の開催回数(回)	3	5	5
2	松本山雅フェスティバル参加団体数(団体)	20	20	20

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
松本山雅フェスティバルin塩尻開催負担金		1,000	▲500	500		500
指導者講習会講師謝礼		84		84		84
青少年スポーツ全国大会等激励金		2,990		2,990		2,990
全国大会等激励金		250		250		250
その他		1,005	+77	1,082		1,082
事業費合計		5,329	▲423	4,906	+0	4,906
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他			0		0
	一般財源	5,329	▲423	4,906	+0	4,906

○ 評価コメント

第1次評価	・スポーツ活動支援事業との統合を認める。 ・松本山雅フェスティバル負担金は、市内チームの編成や参加が多くないことから増額を認めない。 ・国民スポーツ大会の視察は、令和5年度の予算並みとする。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3121
-------	-------	-----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名				競技力向上事業				担当課		社会教育スポーツ課					
目的	対象	スポーツをする市民						施策体系		4-2-2					
	意図	市体育協会への事業委託等により、大会の開催や競技力向上を図ることで、市民への競技スポーツの普及と推進につなげる。						新規/継続		継続					
手段		競技スポーツの推進と競技力向上のための各種大会やスポーツ教室等の開催を、市体育協会と地区体育協会等へ委託する。						会計区分		一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助				○体育振興事業 ○地区体育振興事業 ○活動補助						
事業費・財源	決算額		(千円)		14,694	決算額		(千円)		16,756	予算額		(千円)		20,266
	体育振興事業委託料				4,080	体育振興事業委託料				4,858	体育振興事業委託料				6,063
	地区体育振興事業委託料				2,293	地区体育振興事業委託料				2,709	地区体育振興事業委託料				4,818
	体育協会活動補助金				8,321	体育協会活動補助金				9,189	体育協会活動補助金				9,385
						会場使用料				0					
		特定	0	一般	14,694	特定	0	一般	16,756	特定	0	一般	20,266		
業務量(人工)		正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規	0.16人	会計年度	0.00人	正規	0.16人	会計年度	0.10人		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・中止が続いていた水泳大会は検討の結果、スタッフ不足や参加者の安全確保が困難であるため、令和5年度以降市主催の市民水泳大会は実施しない。今後は、松本市との共同開催や民間企業による独自事業としての開催などを研究する必要がある。 ・地区スポーツ協会への補助金は、各地区の状況等を把握し補助金の在り方を検討しなければならないが、現状、全ての地区の状況を把握するまでには至っていない。
当年度生じた新たな問題等	・水泳大会の共同開催に向けて、松本市スポーツ協会及び松本市水泳協会との話し合いを行い、共同開催に向けた前向きな回答を得たものの、これまで大会の運営に関わってきた団体が、松本市との共同開催に難色を示したことにより、話し合いが頓挫している。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・体育協会活動補助金

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行

○評価指標

評価指標(単位)	市民体育祭参加者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)			1,259	1,526
実績値(事後評価)	461	1,259	1,721	430
目標値			1,500	1,500
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	②
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・本年度の市民体育祭は、平時並みの開催となり、20種目中19種目を実施し、1,721人の参加者があった。
成果	・市民体育祭への参加者が前年度より462人増加した。 ・コロナ禍により地区体育祭の中止や廃止が相次ぎ、中には代替イベントを実施した地区もあった。
課題	・水泳大会は、松本市の大会に併せての開催など、運営方法の研究を継続する必要がある。 ・地区体育協会への補助金については、これまでの経過や各地区の状況を把握し、補助金の在り方を検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	競技力向上事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	スポーツをする市民				
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる			意図		大会の開催により競技スポーツの普及と推進を図る。					
	3－4				手段		市スポーツ協会に各種大会の開催を委託する。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・委託料や補助金については、コロナの規制緩和により地区行事等も再開されることから、各地区の状況や必要性和効果をヒアリング等で把握し補助金の在り方を検討していく。	新年度予算 要求事項	・前年度同様の予算計上とする。
--------	--	---------------	-----------------

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○スポーツ振興事業 ○地区スポーツ振興事業 ○活動補助	○スポーツ振興事業 ○地区スポーツ振興事業 ○活動補助	○スポーツ振興事業 ○地区スポーツ振興事業 ○活動補助

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	市民スポーツ祭参加者数(人)	1,500	1,600	1,700
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
スポーツ振興事業委託料			6,063		6,063		6,063
地区スポーツ振興事業委託料			4,818		4,818		4,818
スポーツ協会活動補助金			9,385		9,385		9,385
					0		0
					0		0
事業費合計			20,266	+0	20,266	+0	20,266
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		20,266	+0	20,266	+0	20,266

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3121
-------	-------	-----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名				体育施設管理運営事業				担当課		社会教育スポーツ課					
目的	対象	スポーツをする市民						施策体系		4-2-2					
	意図	市民の体力づくり、生きがいがいづくり						新規/継続		継続					
手段		スポーツ施設の適正な維持管理による利用の促進						会計区分		一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○現行公共施設予約システム管理委託及び運用 ○公共施設予約新システムの運用 ○体育施設樹木管理				○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理				○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理						
事業費・財源	決算額		(千円)		39,555	決算額		(千円)		44,497	予算額		(千円)		47,887
			体育施設管理委託料		14,262			体育施設管理委託料		15,735	体育施設管理委託料		16,851		
			電力・上下水道使用料		11,496			電力・上下水道使用料		12,543	電力・上下水道使用料		18,557		
			公共施設予約システム運用		3,327			予約システム等使用料		5,240	予約システム等使用料		5,241		
			体育施設樹木管理委託料		930			体育施設樹木管理委託料		933	体育施設樹木管理委託料		1,000		
			その他		9,540			その他		10,046	その他		6,238		
			特定	10,650	一般	28,905			特定	11,274	一般	33,223	特定	18,081	一般
業務量(人工)		正規	0.44人	会計年度	0.35人			正規	0.44人	会計年度	0.35人	正規	0.90人	会計年度	0.35人

○評価指標

評価指標(単位)	体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		60,817	78,671	50,250
実績値(事後評価)	123,924	114,177	163,879	
目標値		190,000	190,000	190,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・シルバー人材センター等に委託し、施設の除草、剪定等を実施し、施設の機能維持を図った。 ・樹木管理については、予算で補えない箇所を職員で対応した。 ・中央スポーツ公園を中心に樹木の枝打ち、伐採等を実施した。
成果	・公共施設予約システムは、学校体育施設も対象としたことで追加予約やキャンセルがシステム上で実施でき、利用者の利便性が向上した。
課題	・樹木の生長に伴い、職員の手には及ばない枝打ち箇所が多数出てきている。近隣住民からの要望も多数出てきている中、今後、業者へ任せることが多くなると想定され、予算の増額が予想される。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・体育施設周辺の樹木については、予算の範囲内で業者に委託し伐採しているが、落ち葉や枝落ちなどに対する近隣住民からの苦情に追い付かず、職員が自ら樹木の伐採や枝打ちを行って対応している。
当年度生じた新たな問題等	・集積した落ち葉やせん定木の処分量が多く、予算内で処理しきれない。 ・学校体育施設の照明に樹木の枝が伸び、照度に支障をきたしている箇所が多くなってきている。 ・学校体育施設のグラウンドの照明は現在水銀灯であるが、水銀灯は生産されておらず交換が必要となった場合に在庫がないことが想定される。計画的にLED化が必要である。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長			氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	体育施設管理運営事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる		
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	スポーツをする市民					
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる					意図	市民の体力づくり、生きがいのための場を提供					
	3-4						手段	スポーツ施設の適正な維持管理による利用の促進					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・体育施設の維持管理にあたっては外部委託している部分もあるが、予算で対応できる部分が限られており、近隣住民からの苦情も増えている。施設の利用促進や市民の施設管理の理解を得るためにも、外部委託を中心とした管理徹底が必要であるとする。	新年度予算 要求事項	・包括管理委託や指定管理制度への移行には、大幅な維持管理費の増額が見込まれるため、当面は、現在の管理委託を若干増額することとし、引続き手法を研究する。
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)(人)	190,000	190,000	190,000
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
体育施設管理委託料		17,310	▲459	16,851		16,851
電力・上下水道使用料		18,557		18,557		18,557
予約システム等使用料		5,241		5,241		5,241
体育施設樹木管理委託料		1,500		1,500		1,500
その他		6,463	▲225	6,238		6,238
事業費合計		49,071	▲684	48,387	+0	48,387
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	施設使用料等	17,987	+13	18,000	18,000
	一般財源		31,084	▲697	30,387	+0 30,387

○ 評価コメント

第1次評価	・早急な対応が増加している樹木管理委託料のみ増額を認め、体育施設管理委託料やその他費用の消耗品費の増額は認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
-------	-------	-----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	体育施設整備事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	体育施設利用者			
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる			意図		市民に安全で快適なスポーツ環境を提供する。				
	3-4				手段		安全対策を優先した施設の維持改修を計画的に実施する。				

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○中央スポーツ公園 ・トイレ解体・改修工事 ○市立体育館 ・駐車場浸透柵設置工事		トイレ解体・改修工事	※	29,273		29,273		29,273
			浸透柵設置工事		600		600		600
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			29,873	+0	29,873	+0	29,873
財源	特定財源				+26,300	26,300		26,300	
	一般財源			29,873	▲26,300	3,573	+0	3,573	
令和7年度	○学校グラウンド ・照明LED化改修工事		改修工事	※	25,000	▲25,000	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			25,000	▲25,000	0	0	0
財源	特定財源			22,500	▲22,500	0		0	
	一般財源			2,500	▲2,500	0	+0	0	
令和8年度	○学校グラウンド ・照明LED化改修工事		改修工事	※	25,000	▲25,000	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			25,000	▲25,000	0	+0	0
財源	特定財源			22,500	▲22,500	0		0	
	一般財源			2,500	▲2,500	0	+0	0	

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の 緊急性	・中央スポーツ公園東側トイレは、老朽化や地区要望により取壊す。トイレ数は減少するが、改修による機能向上で公園利用者の満足度向上を図る。 ・水銀灯の改修は、今後電球の入手が不可能で緊急性が高いが、全ての学校グラウンドを更新するには事業費が高額となるため、中学校区ごと優先校を絞って計画的に更新する。
新年度 予算	・中央スポーツ公園トイレ解体・改修工事 ・市立体育館駐車場浸透桧設置工事

○ 査定コメント

第1次 査定	・令和6年度のトイレ解体・改修工事は集約化を条件として認める。 ・令和7年度学校グラウンドの照明LED化は、リース対応が有効的であることから、R7からソフト事業で順次計上し実施すること。
第2次 査定	・中央スポーツ公園の各施設、競技間で融通・調整しながら利用されるよう促すとともに、公園全体の利用状態を描きながら整備や維持更新を進めること。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	課長補佐	氏名	長島 峰行	連絡先(内線)	3120
-------	-------	-----------	---------	----	------	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		総合体育館運営事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	施設を利用する市民						施策体系		4-2-2			
	意図	施設の稼働率の向上及び利用者の満足度の向上を図る。						新規/継続		継続			
手段		指定管理者制度による効率的な管理運営(R3～5年間)						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用			○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業 ○開館イベント費用			○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業					
事業費・財源		決算額		(千円)	110,600	決算額		(千円)	104,845	予算額		(千円)	104,744
		指定管理料			101,920	指定管理料			98,706	指定管理料			99,840
		開館イベント委託料			4,729	開館イベント委託料			2,970	イベント開催関係			2,067
		運動習慣事業委託料			1,235	運動習慣事業委託料			475	運動習慣事業委託料			1,500
		その他			2,716	その他			2,694	その他			1,337
		特定	1,500	一般	109,100	特定	1,500	一般	103,345	特定	1,500	一般	103,244
業務量(人工)		正規	0.12人	会計年度	0.00人	正規	0.12人	会計年度	0.00人	正規	0.15人	会計年度	0.17人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・定例会を毎月実施し、指定管理者との情報共有を図りながら各種事業や施設運営を進めている。 ・市民の競技力向上やスポーツへの関心を高めることを目的に、奥原希望選手によるバドミントンクリニックを本年度中に開催する予定。 ・利用促進を促す打ち手の研究や、学生の合宿誘致などのスポーツツーリズムの研究については、指定管理者とも意見交換をしながら、引き続き検討を進めている。
当年度生じた新たな問題等	・子どもの運動習慣改善事業は本年で3年目を迎えた。過去に事業に応募した学校が申し込むリピーターによる申請が多く、予算内のコマ数がすぐに埋まってしまうほど好評を得ている。コマ数を超過した場合は、前年度に事業を受けた学校に遠慮していただくなどの対応を取っている。
見直し対象の補助金等	

○評価指標

評価指標(単位)	施設の利用者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		29,065	49,075	19,909
実績値(事後評価)	-	77,008	93,586	
目標値		60,000	80,000	80,000
評価指標(単位)	スポーツ大会利用日数(日)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		14	9	17
実績値(事後評価)	-	41	52	
目標値		30	30	30

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・指定管理者と月1回の定例会を実施し、利用者の声や施設管理、自主事業などの情報共有を図った。 ・子どもの運動習慣改善事業は、希望する市内小学校4校145名に対して実施した。 ・奥原希望選手によるクリニックは、海外遠征の日程により実施することができなかった。
成果	・開館以来コロナウイルス感染症の影響で、利用者数が目標値に達していなかったが、指定管理者の努力や大会開催数の増加により前年度から16,578人増加し目標値に達することができた。
課題	・定例会の実施により指定管理者との情報共有の場を引き続き設けていく必要がある。 ・平日昼間の稼働率が低く、指定管理者が自主事業を実施しているが利用者の関心が薄い。利用促進の打ち手の研究とともに、学生の合宿誘致などスポーツツーリズムの検討を進めたい。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	スポーツ推進係長		氏名	長島 峰行

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	総合体育館運営事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	施設を利用する市民			
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる					意図	施設の稼働率の向上及び利用者満足度の向上			
	3-4						手段	指定管理者制度による効率的な管理運営			

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・施設の利用促進のため、引き続きイベントや講習会等を開催することで施設のPRを行うとともに、新たな利用者層の確保に向けて指定管理者等と検討を行う。 ・運動習慣づけや生涯を通して運動をするきっかけづくりとしても小学校低学年を対象とした子どもの運動習慣改善事業は、学校からのニーズも高まってきていることから、市内全校での実施を計画したい。	新年度予算 要求事項	・子どもの運動習慣改善事業が市内小学3年生の全クラスで実施できるよう委託料を増額する。 ・国民スポーツ大会開催に向け、トップアスリートを誘致したクリニック等のイベントを開催し、気運の醸成を図る。
--------	--	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業	○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業	○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	施設の利用者数(人)	100,000	105,000	110,000
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
指定管理料		98,800		98,800		98,800
イベント開催関係		1,000		1,000		1,000
運動習慣事業委託料		2,000		2,000		2,000
その他		1,886	▲771	1,115		1,115
事業費合計		103,686	▲771	102,915	+0	102,915
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 施設命名権収入	1,500		1,500		1,500
	一般財源	102,186	▲771	101,415	+0	101,415

○ 評価コメント

第1次評価	・運動習慣委託料は小学校3年生全クラスで実施するための増額を認める。 ・消耗品購入の提案がある消毒液は、コロナが5類となったことから減額する。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
-------	-------	-----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	健康スポーツ推進事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅱ 健康長寿で未来を楽しむ	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる					意図	市民の健康体力づくりを推進することによりスポーツの普及・推進を図る。				
	3-4						手段	運動指導や普及を行う人材の育成				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・ファミリースポレクフェスティバルは運営主体となる実行委員会組織の見直しなどを行い、幅広い年齢層の参加者が見込めるよう地域資源を一層活用した内容等の検討を進めていく。 ・スポーツ普及員は事務局の負担が大きい点、スポーツ推進委員の活動内容と重なる面も多いことから、活動内容を精査し、組織の存続について検討する必要がある。推進委員事業に普及員を加えた事業形態に移行し、推進委員と普及員を統合させる研究を進める。	新年度予算 要求事項	—
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル	○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル	○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	ファミリースポレクフェスティバルの開催(回)	1	1	1
2	スポーツ推進委員派遣回数(回)	20	20	20

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
非常勤職員報酬			2,000		2,000		2,000
健康スポーツ都市宣言事業負担金			700		700		700
その他			1,319		1,319		1,319
					0		0
事業費合計			4,019	+0	4,019	+0	4,019
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		4,019	+0	4,019	+0	4,019

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3121
-------	-------	-----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	C	シニアが生き生きと活躍できる地域の創造	プロジェクト	7	生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築	施策	2	生涯を通じた学びと知識や経験の継承
目的	高齢者をはじめ、自発的に活動する意欲を持った市民に対して、生涯を通じた学び合いの場や文化芸術に触れる機会を提供することで、市民一人ひとりの豊かな生活の創造と地域活動の活性化を促進します。							

2 施策の指標における成果

指標		基準値 基準年度	達成値			目標値
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	公民館の来館者数	210,356人 R1	127,739人	156,196人		220,000人
	文化会館利用者数	97,772人 R1	41,600人	60,250人		112,000人
市民	図書館や公民館などの利用環境が整っていると感じる市民の割合	70.8% R2	72.0%	69.8%		74.0%
	音楽や文学、芸術活動に触れたり参加したりする機会に恵まれていると感じる市民の割合	33.6% R2	29.2%	31.5%		43.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の適正性 (重点化や構成の変更等について)	・コロナ禍により自粛傾向となっていた社会教育活動全般について、市民生活の充実を目指し、成果の拡充に向けた取り組みが重要であり、各事業に注力していく。 ・文化会館については、特定天井が耐震基準を満たしていないことが判明したため、最重点事業とする。
役割分担の妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	・芸術文化団体の構成員の高齢化が進んでおり、世代交代を促すことで継続的な活動が自主的に運営できるよう支援していく。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	田下 高秋		

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み①	生涯学習活動の推進	手段	市民が生涯学習を通じて、生きがいを持ち、豊かな生活を送れるように、公民館の講座や塩尻ロマン大学等による学びの場を提供するとともに、学習拠点となる社会教育施設の環境の充実を図ります。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	生涯学習支援事業	社会教育スポーツ課	2,288	2,349	3,351		現状維持	現状維持
2	公民館事業	社会教育スポーツ課	41,863	45,594	45,959		拡充	現状維持
3	公民館分館施設整備事業	社会教育スポーツ課	5,297	32,500	41,491	△	現状維持	縮小
取り組み②	文化芸術活動の支援	手段	市民が、多様な文化芸術を身近に接することができるよう、文化会館の改修や市民ニーズに応じた事業の企画、文化芸術活動を行っていきます。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	芸術文化事業	社会教育スポーツ課	1,959	2,856	4,388		拡充	拡大
2	文化会館運営事業	社会教育スポーツ課	132,720	132,720	134,744	△	拡充	縮小
3	文化会館改修事業	社会教育スポーツ課	52,910	6,133	20,000	◎	拡充	拡大

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和4年度 事後評価

施策指標の要因分析	・コロナ感染症の影響により、統計指標は令和3年度に比べて回復してきているが、過去の実績や目標値を大きく下回っている。また、市民指標も一部拡幅したものの、目標を下回っている。
施策の定性評価	・コロナ感染症の影響により生涯学習活動が数年間停滞した。今後、市民活動団体等が活動を再開できるよう可能な範囲で支援することが重要となる。 ・人数制限や活動制限がなくなることで、結果として芸術文化に触れる機会の回復が期待される。 ・公民館活動や芸術文化活動が再開していくことで、地域コミュニティの活性化が図られる。

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習支援事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民						施策体系		7-2-1			
	意図	生涯学習のための環境と機会の提供						新規/継続		継続			
手段		・各年代に応じた学習機会の提供及び情報発信 ・生涯学習の現状と課題を把握するためのアンケート調査実施 ・第六次塩尻市総合計画の策定に合わせた、「塩尻市生涯学習推進プランⅣ」の策定						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金			○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金			○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金 ○塩尻市生涯学習推進プランⅣ策定					
事業費・財源		決算額		(千円)	2,288	決算額		(千円)	2,349	予算額		(千円)	3,351
		社会教育委員報酬			194	社会教育委員報酬			124	社会教育委員報酬			282
		ロマン大学事業補助金			398	ロマン大学事業補助金			423	ロマン大学事業補助金			1,000
		その他			1,696	その他			1,802	その他			2,069
		特定		64	一般	2,224	特定	103	一般	2,246	特定	35	一般
業務量(人工)		正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規	0.73人	会計年度	0.02人	正規	0.80人	会計年度	0.02人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・コロナ対応が大きく緩和されたためかロマン大学への入学希望者が多く、募集人数の40人より多い66人の応募があった。また、新規受講入学者も多く、今年度入学者は全員が新規受講者である。 ・カリキュラムを作成した際はコロナ対応を考慮したため、野外授業講座の回数を大幅に増やすことは出来なかったが、視察先の職員に説明ガイドをやっていただくなど内容の充実が図られ、有意義な野外授業講座になった。
当年度生じた新たな問題等	・ロマン大学を体調不良や家庭の事情を理由に途中で退講される方が昨年度に続いて多い。(今年度3人)一時的な傾向なのか注視したい。 ・過去に実施していた事業(学びの道等)の深掘り学習(吉江狐雁生家、権兵衛街道、石碑等)や新たな生涯学習活動の提案に対し、受け皿となる社会教育事業がない。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・ロマン大学事業補助金

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	稲葉 春佳	連絡先(内線)	3133
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美

○評価指標

評価指標(単位)	ロマン大学入学者に占める新規入学者の割合(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	84	59	76	100
実績値(事後評価)		59	76	
目標値		59	80	80
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	現状維持
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・ロマン大学は、生涯学習の一環として社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施し、予定していた野外授業も開催することが出来た。
成果	・ロマン大学では、1学年時にアンケートを取り、アンケート結果を学習プログラムに反映させることで、内容の充実を図った。
課題	・コロナ感染症の影響によりロマン大学入学者が減少したが、新規受講者の割合は増加した。新規受講者は、新たに生涯学習を実践し、または挑戦しようとしての方々で、引き続き新規受講者の獲得に務める必要がある。 ・コロナ対応が緩和されたため、参加者に好評の野外授業講座の回数や開催方法の検討が必要である。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	生涯学習支援事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅱ 健康長寿で未来を楽しむ		
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民					
	施策	行事や文化活動で、新たな発見や刺激が得られる機会がある					意図	生涯学習のための環境と機会の提供					
	3-1						手段	学習機会の提供と情報発信を行う。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・ロマン大学については、コロナの制限が緩和されたことを受け、新年度のカリキュラムに実習講座や課外講座など様々な講座を取り入れることにより、生涯学習のための環境と機会を提供していく。 ・社会教育事業全般の活性化を図るため、中央公民館との連携事業を実施する。	新年度予算 要求事項	—
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金	○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金	○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業補助金

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	ロマン大学入学者に占める新規入学者の割合(%)	80	80	80
2	ロマン大学の講座を受講したことにより、新しい知識や技能が身についたと感じる参加者の割合(%)	70	70	70

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
社会教育委員報酬		282		282		282
ロマン大学事業補助金		1,000		1,000		1,000
その他		2,069		2,069		2,069
				0		0
				0		0
事業費合計		3,351	+0	3,351	+0	3,351
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	生涯学習書籍売上代等	35	35		35
	一般財源		3,316	3,316	+0	3,316

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	稲葉 春佳	連絡先(内線)	3133
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		公民館事業						担当課		社会教育スポーツ課						
目的	対象	市民全体						施策体系		7-2-1						
	意図	市民の生涯学習を推進すると共に、地域の連携をさらに深めるために、公民館の運営と各種、講座、講演会等を行う。						新規/継続		継続						
手段		中央公民館の運営と地区公民館における各種教室、講座、講演会等の運営を支援する。						会計区分		一般						
年度別 事業内容		令和3年度				令和4年度				令和5年度						
		○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進				○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進				○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進						
事業費・財源		決算額		(千円)		41,863	決算額		(千円)		45,594	予算額		(千円)		45,959
		地区公民館事業負担金				27,655	地区公民館事業負担金				27,684	地区公民館事業負担金				27,752
		会計年度任用職員報酬等				10,156	会計年度任用職員報酬等				14,386	会計年度任用職員報酬等				
		学級講座講師謝礼				790	学級講座講師謝礼				1,096	学級講座講師謝礼				1,100
		その他				3,262	その他				2,428	その他				17,107
		特定	1,991	一般	39,872	特定	2,107	一般	43,487	特定	1,510	一般	44,449			
業務量(人工)		正規	0.70人	会計年度	1.16人	正規	0.70人	会計年度	1.16人	正規	0.71人	会計年度	1.26人			

○評価指標

評価指標(単位)	公民館事業参加人数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)			5,677	6,468	6,378
実績値(事後評価)	11,988	12,852	19,396		
目標値			25,000	25,000	25,000
評価指標(単位)					
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)					
実績値(事後評価)					
目標値					

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	②
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		A		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・中央公民館では122回の講座を実施し延べ2,021人、地区公民館では747回の講座を実施し延べ17,375人が参加した。 ・年間を通じてコロナの影響により中止、延期するものもあったが、工夫しながら地域のつながりや学びの場の提供が途切れないう事業を推進した。
成果	・withコロナの中、それぞれ工夫をしながら公民館活動を推進した。 ・各公民館が社協と連携して、福祉・防災などをテーマにした講座を実施した。
課題	・これからの公民館活動について議論、検討する必要がある。 ・地域課題解決の事業は、他団体との連携を強化していく必要がある。 ・分館活動がより活発になるよう中央公民館が中心となり、地区公民館の支援を検討・実施していく必要がある。

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・各公民館が社会福祉協議会と連携して、福祉・防災などをテーマにした講座を継続して実施・計画している。また社協以外の団体ともそれぞれ地域の特性を活かした取り組みの中で連携している。 ・分館役員が一同に会する公民館研究集会を開催し、他地区の分館同士のつながりが出来、お互いに活動を見学したり、情報交換をしたりする分館があり、分館活動推進の一助となった。
当年度生じた新たな問題等	・コロナ禍において分館活動が思うように出来ていなかったため、役員同士の引き継ぎが出来ていない。ただし、区によって異なるが、それによって分館活動が衰退するということはあまり見られず、分館が自主的に考えて活動をしている。その中で中央公民館・地区公民館の支援も検討・実施していく。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・公民館事業負担金

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	中央公民館	職名	主任	氏名	安藤 寿秀	連絡先(内線)	3141
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長				氏名

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	公民館事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅱ 健康長寿で未来を楽しむ	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	行事や文化活動で、新たな発見や刺激が得られる機会がある					意図	生涯学習を推進すると共に地域連携を更に深めるための仕掛けづくり				
	3-1						手段	中央公民館の運営と地区公民館における各種教室・講座・講演会等の運営を支援する。				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・地域特性を活かした人づくり・つながりづくり・地域づくりの推進 ・多様な団体、住民との連携によって多くの住民を巻き込む公民館活動の展開 ・分館活動をより活発化していくための、中央・地区公民館の支援の充実 ・地域のことを自分事と捉え、住民自治力を高められる仕掛けづくり	新年度予算 要求事項	—
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援	○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援	○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	公民館事業参加人数(人)	25,000	25,000	25,000
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
地区公民館事業負担金		27,752		27,752		27,752
学級講座講師謝礼		1,100		1,100		1,100
その他		3,050		3,050		3,050
				0		0
				0		0
事業費合計		31,902	+0	31,902	+0	31,902
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	公民館使用料等	1,510	1,510		1,510
	一般財源		30,392	30,392	+0	30,392

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	中央公民館	職名	主任	氏名	安藤 寿秀	連絡先(内線)	3141
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		公民館分館施設整備事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	公民館分館を利用する住民						施策体系		7-2-1			
	意図	地区及び地区住民の負担を軽減し、生涯学習活動の充実を図る。						新規/継続		継続			
手段		地区公民館、分館の新築・増改築工事に対する補助						会計区分		一般			
								個別施設計画					
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○公民館分館改修補助			○公民館分館改修補助			○公民館分館改修補助					
事業費・財源		決算額		(千円)	5,297	決算額		(千円)	32,500	予算額		(千円)	41,491
		補助金			5,297	補助金			32,500	補助金			41,491
		特定		0	一般	5,297	特定		0	一般	41,491		
業務量(人工)		正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規	0.03人	会計年度	0.00人	正規	0.10人	会計年度	0.00人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・新年度以降実施予定の公民館の新築や改修の要望書の提出を各地区から受けた。
当年度に生じた 新たな問題等	・工事費高騰の影響により、前年度予算編成時点と新年度事業実施時点での工事金額に差異が生じるケースがある。 各区への補助金交付額は予算編成時に決定となることから、差額は区の支出となり、負担が増大している。
見直し対象の 補助金等	【内容を見直し継続】 ・公民館分館施設整備事業補助金

○評価指標

評価指標(単位)	補助事業実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	4	11	12
実績値(事後評価)	4	12	
目標値	4	12	15

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の 方向性	③
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・地域活動の拠点となる日出塩公民館外10箇所について施設改修の補助金を、町区公民館については新築の補助金を交付した。 ・公民館の新築や改修について、各地区に聞き取り調査を実施した。
成果	・地域活動の拠点施設の機能維持、環境整備に寄与することができた。 ・各地区から令和6年、令和7年の改修要望を聞き取り調査した。主な内容は、施設の老朽化による屋根、外壁、内壁、トイレの改修、温暖化によるエアコンの設置であった。
課題	・築40年以上の建物が公民館全体の半数を占めており、聞き取り調査以降も施設の老朽化による改修についての相談を受けている。 ・改修費がもともと高額になる傾向があったが、急激に物価が高騰しており、区の負担が増大しているため、補助限度額等の見直しを検討する必要がある。 ・年度ごとの補助額の平準化ができるよう事前申請制度の周知と、地区で取り組みに差が生じない方策を検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長		氏名	清水 佳美

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	公民館分館施設整備事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	公民館分館を利用する住民			
	施策	行事や文化活動で、新たな発見や刺激が得られる機会がある					意図	地区及び地区住民の負担を軽減し、生涯学習活動の充実を図る。			
	3-1						手段	地区公民館、分館の新築・改修工事に対する補助			

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○公民館分館の新築・改修補助		非木造改修(大門一番町公民館)		831		831		831
			木造改修(大門田川町公民館)		567		567		567
			木造改修(野村区公民館関連施設)		2,634		2,634		2,634
			非木造改修(吉田東公民館)		1,595		1,595		1,595
			非木造改修(賛川公民館)		4,386		4,386		4,386
			事業費合計		10,013	+0	10,013	+0	10,013
	財源	特定財源					0		0
	一般財源			10,013	+0	10,013	+0	10,013	
令和7年度	○公民館分館の新築・改修補助		非木造改修(野村公民館)		6,138		6,138		6,138
			非木造改修(吉田東公民館)		1,200		1,200		1,200
			木造改修(平出公民館)		3,180		3,180		3,180
			非木造改修		6,360	▲6,360	0		0
							0		0
			事業費合計		16,878	▲6,360	10,518	0	10,518
	財源	特定財源					0		0
	一般財源			16,878	▲6,360	10,518	+0	10,518	
令和8年度	○公民館分館の新築・改修補助		木造改修(峰原公民館)		828		828		828
			非木造改修(野村公民館)		300		300		300
			非木造改修(勝弦公民館)		1,307		1,307		1,307
			非木造改修(大出公民館)		429		429		429
			非木造改修		6,360	▲6,360	0		0
			事業費合計		9,224	▲6,360	2,864	+0	2,864
	財源	特定財源					0		0
	一般財源			9,224	▲6,360	2,864	+0	2,864	

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・築40年以上の老朽化した建物が、公民館全体の半数を占めていることから、継続して新築や改修に対する補助が必要である。
新年度予算要求事項	・国土交通省が公表している建設工事デフレーターに基づき、補助金の基準額を1.2倍に見直す。

○ 査定コメント

第1次査定	・事務改善として今後3年間の要望を把握できたことから、基本は3力年固定とする。令和7・8年度の箇所不確定の非木造改修の計上は認めない。緊急性を考慮しながら実施計画の補正で検討することとする。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	総合文化センター管理事業(施設改修)			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	塩尻総合文化センター利用者			
	施策	行事や文化活動で、新たな発見や刺激が得られる機会がある					意図	快適な生涯学習活動の拠点施設の整備			
	3-1						手段	計画的な施設及び設備の改修			

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○防火設備改修 ・通路防火扉 ・階段前防火扉 ・排煙窓 ・料理実習室排煙装置	通路防火扉改修工事			806		806		806
		階段前防火扉改修工事			172		172		172
		排煙窓改修工事			462		462		462
		排煙装置改修工事			440		440		440
							0		0
		事業費合計			1,880	+0	1,880	+0	1,880
	財源	特定財源					0		0
令和7年度	○非常電源装置交換 ・工事	蓄電池整流器交換工事			17,468	▲17,468	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			17,468	▲17,468	0	0	0
	財源	特定財源					0		0
令和8年度							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			0	+0	0	+0	0
	財源	特定財源					0		0
	財源	一般財源			0	+0	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・防火設備については、建築基準法第12条第3項の定期検査において是正の指摘があったことから、利用者・職員の安全確保のため、早期の実施が必要である。 ・調理実習室の排煙装置については、排煙機能が低下していることから改修が必要である。 ・非常電源装置については、耐用年数が経過しており、非常時に電源が使用できなくなる恐れがあることから交換が必要である。
新年度予算要求事項	・令和6年度:防火設備改修 ・令和7年度:非常電源装置交換

○ 査定コメント

第1次査定	・是正指摘のあったR6防火設備改修は緊急性が高いため実施を認める。 ・R7蓄電池整流器交換工事は、避難所に指定されていないことから緊急性に欠けると判断し認めない。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		芸術文化事業				担当課		社会教育スポーツ課									
目的	対象	市民及び芸術文化活動者				施策体系		7-2-2									
	意図	市民の芸術文化意識の向上と芸術文化活動者の拡大、活性化により、市芸術文化の振興を図る。				新規/継続		継続									
手段		市芸術文化事業及び芸術文化研修事業の開催、芸術文化事業補助金の交付				会計区分		一般									
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度								
	○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用								
事業費・財源	決算額		(千円)		1,959	決算額		(千円)		2,856	予算額		(千円)		2,580		
			芸術文化事業委託料		860			芸術文化事業委託料		1,156			芸術文化事業委託料		2,260		
			芸術文化事業補助金		90			芸術文化事業補助金		182			芸術文化事業補助金		250		
			その他		1,009			その他		1,518			その他		70		
	特定	0		一般	1,959	特定	0		一般	2,856	特定	0		一般	2,580		
業務量(人工)		正規	1.05人		会計年度	0.66人		正規	1.05人		会計年度	0.66人		正規	1.10人	会計年度	0.14人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・事業参加団体に実施内容の見直しや新たな集客方法について検討・提案をいただいているが、課題解決には至っていない。
当年度生じた新たな問題等	・昨年度まではコロナにより開催内容に制限をかけていたが、今年度からは制限を大きく緩和し、開催内容もコロナ禍前のものに戻つつある。コロナ禍ではやっていなかった内容をどこまで復活させていくか、実行委員会の負担や集客力の観点から検討を行う必要がある。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・芸術文化事業補助金

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

○評価指標

評価指標(単位)	芸術文化事業参加団体数(団体)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		0	34	48	
実績値(事後評価)	24	64	118		
目標値		175	175	175	
評価指標(単位)	芸術文化事業参加来場者数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)		0	850	1,650	
実績値(事後評価)	1,200	3,050	3,850		
目標値		8,000	8,000	8,000	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・塩尻市芸術文化事業5事業のうち、芸術祭、文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの4事業を実施し、音楽祭については観客を入れない練習会を実施した。 ・市内芸術文化活動団体の活動を支援するため、補助金を5件交付した。
成果	・新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、活動者にとっては自身の活動の成果発表の場の提供、市民の皆様には芸術に触れる機会の提供を行うことができた。
課題	・芸術祭、音楽祭、文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの5事業を実施しているが、事業によっては来場者が伸び悩んでいるため、実施内容の見直しや集客方法を検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	芸術文化事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅲ 地域経済を強化し未来をつくる		
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び芸術文化活動者					
	施策	文化芸術に触れ、活動する機会がある					意図	市民の芸術文化意識の向上と活動者の拡大・活性化により、市芸術文化の振興を図る。					
	3-2						手段	市芸術文化事業及び芸術文化研修事業を開催する。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・芸術文化事業5事業のうち、芸術祭・文化祭については来場者が伸び悩んでいることから、体験の機会を増やす等の工夫により、市民の芸術文化意識の向上と活動者の拡大を図っていく。 ・市が所有する絵画等の展示を総合文化センターで継続して実施する。	新年度予算 要求事項	・次代を担う青少年の芸術文化活動を応援し、更なる活動の促進を図るため、全国大会に出場する青少年に対し、激励金を交付する。
--------	---	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用	○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用	○芸術文化事業(5事業)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	芸術文化事業参加団体数(団体)	150	150	150
2	芸術文化事業参加来場者数(人)	5,000	6,000	7,000

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
芸術文化事業委託料			2,260		2,260		2,260
芸術文化事業補助金			250		250		250
青少年芸術文化全国大会等激励金			1,000	▲1,000	0		0
その他			70		70		70
					0		0
事業費合計			3,580	▲1,000	2,580	+0	2,580
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		3,580	▲1,000	2,580	+0	2,580

○ 評価コメント

第1次評価	・芸術文化全国大会激励金は児童生徒の弛まぬ努力とその成果を激励する目的を明確にし、大きな目標となる大会を明示するなど交付基準を明確に定めること。件数等が明確でないことから減額とし、予算編成までに制度設計を詰めること。 ・寄附や基金終了後の終結を想定すること。
第2次評価	・1次評価のとおりとする。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化会館運営事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民及び芸術文化活動者						施策体系		7-2-2			
	意図	質の高い芸術文化鑑賞事業等を市民へ安価に提供する。						新規/継続		継続			
手段		文化会館の管理運営と芸術文化鑑賞事業の実施						会計区分		一般			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○施設の指定管理			○施設の指定管理			○施設の指定管理					
事業費・財源		決算額		(千円)	132,720	決算額		(千円)	132,720	予算額		(千円)	134,744
		指定管理料			132,720	指定管理料			132,720	指定管理料			132,720
										インボイス制度対応費用			2,024
		特定	0	一般	132,720	特定	0	一般	132,720	特定	0	一般	134,744
業務量(人工)		正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	0.08人	会計年度	0.00人	正規	0.08人	会計年度	0.00人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・文化会館から利用者へのコロナ対策のお願い事項を緩和し、利用者自身の考えで対策を講じていただくこととした。
当年度生じた新たな問題等	・今後、大規模改修を行うようになった場合は、その時期を考慮した事業計画や利用者の予約の受付を行う必要がある。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

○評価指標

評価指標(単位)	文化会館利用者数(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		18,620	23,651	22,760
実績値(事後評価)	13,550	41,600	60,250	
目標値		112,000	112,000	112,000
評価指標(単位)	文化会館芸術文化事業来場者数(利用者数内数)(人)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4,746	7,022	6,398
実績値(事後評価)	2,779	9,746	15,237	
目標値		27,000	27,000	27,000

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	④
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた制限の中、事業を実施した。
成果	・令和4年度も、コロナの影響により中止をした事業もあったが、対策を講じた上で開催した事業が多かった。また、利用状況については、中ホールはコロナ前の水準に戻りつつある。
課題	・コロナの影響も小さくなる中、利用率や利用者人数がコロナ前の水準に戻っていくか注視する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	文化会館運営事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習			目的	対象	市民及び芸術文化活動者		
	施策	文化芸術に触れ、活動する機会がある			意図	質の高い芸術文化鑑賞事業等を市民に安価に提供する。					
	3-2				手段	文化会館の管理運営と芸術文化鑑賞事業の実施					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・コロナの制限が緩和されたことを受け、コロナ前の事業実施水準に戻すことを目標に、質の高い芸術文化鑑賞事業等を提供していく。	新年度予算 要求事項	—
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○施設の指定管理	○施設の指定管理	○施設の指定管理

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	文化会館利用者数(人)	100,000	105,000	112,000
2	文化会館芸術文化事業来場者数(人)	24,000	25,500	27,000

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
指定管理料			132,720		132,720		132,720
					0		0
					0		0
					0		0
					0		0
事業費合計			132,720	+0	132,720	+0	132,720
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		132,720	+0	132,720	+0	132,720

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		文化会館改修事業						担当課		社会教育スポーツ課			
目的	対象	市民及び文化会館利用者						施策体系		7-2-2			
	意図	芸術文化鑑賞事業等の実施拠点を確保する。						新規/継続		継続			
手段		計画的な施設及び設備の改修						会計区分		一般			
								個別施設計画		○			
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
		○文化会館改修工事 ・受電設備更新 ・空調自動制御機器更新 ・舞台機構設備マニラロープ改修			○文化会館改修工事 ・コンサートピアノオーバーホール ・建物外壁防水工事(調査業務) ・吊天井耐震化工事(調査業務)			○文化会館改修工事 ・建物外壁防水工事					
事業費・財源		決算額		(千円)	52,910	決算額		(千円)	6,133	予算額		(千円)	20,000
		改修工事			52,910	改修調査業務委託料			2,035	改修工事			20,000
						ピアノオーバーホール委託料			4,098				
		特定	48,700	一般	4,210	特定	0	一般	6,133	特定	18,000	一般	2,000
業務量(人工)		正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規	0.11人	会計年度	0.00人	正規	0.11人	会計年度	0.00人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・大規模改修に向け、改修の必要・要望がある箇所の洗い出しなどの事前準備を行っている。
当年度に生じた 新たな問題等	・館内スプリンクラーや音響設備など修理・更新が必要な箇所が新たに出てきている。
見直し対象の 補助金等	

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長		氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美	

○評価指標

評価指標(単位)	施設設備改修工事・調査実施数(件)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	0	0	0
実績値(事後評価)	3	3	
目標値	2	3	1

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	①
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・外壁の劣化状況や吊天井の耐震強度について調査を行った。
成果	・外壁の状況や補修工事必要箇所を把握することができた。 ・吊天井は耐震強度が無いことが確定した。
課題	・建設から年数が経過しており、大規模改修が必要である。 ・特に、今回調査を行った大・中ホール吊天井は大規模地震の際、安全性を担保できない状況であり、早期に改修が必要である。 ・その他、今回調査を行った外壁、安全性が確保できないため使用禁止としている正面玄関の回転ドア、エレベーターなど、今後も利用していくことを考えた場合、確実に改修が必要な箇所が複数ある。 ・これらの改修工事は長期の休館を伴うため、館の運営計画を調整しながら改修時期を検討する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	文化会館改修事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民及び文化会館利用者		
	施策	文化芸術に触れ、活動する機会がある					意図	芸術文化鑑賞事業等の実施拠点の機能維持		
	3-2						手段	計画的に施設及び設備の機能維持を図る。		

○ 年度別事業内容、財源内訳 (R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○基本計画策定 ・吊天井の改修計画 ・大規模改修計画 ・工事計画、仮設計画		特定天井改修工事計画策定		13,420		13,420		13,420
			大規模改修基本計画策定		9,790		9,790		9,790
			CM業務委託		8,910		8,910		8,910
							0		0
							0		0
			事業費合計		32,120	+0	32,120	+0	32,120
	財源	特定財源					0		0
令和7年度	○改修設計業務		設計業務委託	※	28,600	▲28,600	0		0
			音響調査業務委託		11,000	▲11,000	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
			事業費合計		39,600	▲39,600	0	0	0
	財源	一般財源			11,000	▲11,000	0	+0	0
令和8年度	○改修設計業務 ・契約約款の作成 ・業者選定、基本設計CM支援 ・プロポーザル審査員報酬		設計業務委託	※	42,900	▲42,900	0		0
			弁護士費用		1,100	▲1,100	0		0
			CM業務委託		33,220	▲33,220	0		0
			委員報酬、費用弁償		300	▲300	0		0
			手数料		907	▲907	0		0
			事業費合計		78,427	▲78,427	0	+0	0
	財源	一般財源			35,527	▲35,527	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・特定天井(日常的に人が利用する高さ6m超、面積200㎡超の吊り天井)は、平成27年の建築基準法施行令改正により基準不適合の場合、地震により脱落する危険性が高く、早期に改善すべき構造物である。 ・令和4年度に実施した調査により基準を満たしていないことが判明したことから、安全確保のため早期に改修工事を実施する必要がある。
新年度予算	・基本設計レベルの工事計画を策定する。 ・工事発注準備

○ 査定コメント

第1次査定	・令和6年度の基本計画(基本設計含む)作成を認める。 ・公共施設マネジメント課で進める市全体の公共施設のあり方を検討する計画作成を基礎としながら、他市類似施設の事例を研究する中で、市全体の財政計画を勘案し、改修の適正な規模・手法を検討をしていくこととする。 ・令和7年度以降は不確定であるため査定減とする。
第2次査定	・吊り物の落下防護策は様々な方法を研究することとし、工事費等の圧縮や財源の研究を進めること。特にCMは委託費以上のコスト圧縮の成果を確実に求めること。 ・改修費や今後の維持管理費、音響など設備・装備等も含め、施設の目指す水準についても検討を加えること。

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
-------	-------	-----------	-------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	包	基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト	プロジェクト	10	地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり	施策	2	知恵の交流を通じた人づくりの場の提供
目的	市民交流センター機能を中心に、知恵と意欲を持つ人材や団体の活発な活動・交流を促進するとともに、時代の潮流に応じた情報の集積拠点として、多様な資源とネットワークを活用し、確かな情報提供と課題解決の支援をすることで、新たな知恵と価値が創出される場を提供します。							

2 施策の指標における成果

指標		基準値 基準年度		達成値			目標値
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
統計	まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数(累計)	29団体	R1	33団体	36団体		40団体
	市民交流センター貸館利用率	75.9%	R1	69.9%	73.2%		80.0%
	レファレンス受付件数	2,314件	R1	2,429件	2,006件		2,500件
	図書館の市民1人当たり貸出冊数	10.0冊	R1	10.2冊	9.8冊		10.0冊
市民	市民が中心となったまちづくり活動が活発に行われていると感じる市民の割合	28.2%	R2	25.8%	31.9%		36.0%

4 施策の評価(事中評価)

事業構成の 適正性 (重点化や構成の変更等について)	・市民交流センターの空調・照明設備等更新工事が国庫補助事業に採択された。 防災拠点としての機能強化と脱炭素化を目的として設計・工事を重点的に進める。 併せて長期修繕計画の抜本的な見直しを行い、施設の維持管理を適切に行う。 ・古田晁記念館を保存活用していくために、展示棟・管理棟等の耐震工事を実施したい。
役割分担の 妥当性 (市民や多様な主体との連携の方向性について)	・市民交流センターを拠点として、多様な市民活動が生まれている。持続可能な地域づくりに向けて、市民活動への意欲を喚起し、人の交流をさらに促進する。 ・「地域づくりは人づくりから」を基本理念に、図書館を中核とした複合施設の強みを生かし、地域課題の変化に応じた情報サービスを創出し、市民主体の確かな地域づくりを支える。

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み ①	市民活動の支援と 人の交流の促進	手段	市民や市民団体が、新たな公共サービスの担い手としてまちづくりに参画するため、研修会や講演会、補助金制度などの活用を促し、自立した団体運営の確立を支援します。 また、市民交流センターの機能を活用した事業展開を図ることなどにより、多様な団体や人材の交流を促進します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点 点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	協働のまちづくり推進事業	市民交流センター	2,987	3,480	5,067	○	拡充	拡大
2	市民交流センター交流企画事業	市民交流センター	18,028	17,540	21,527		拡充	現状維持
3	市民交流センター管理諸経費 (施設改修)	市民交流センター	20,966	18,975	23,452	◎	拡充	拡大
取り組み ②	確かな情報による 課題解決の応援	手段	幼児からシニア世代までの幅広い市民を対象とした質の高い総合的な図書館サービスを実現するとともに、利用者のニーズに対応した資料・データの整備とレファレンス等による確かな情報提供体制を充実させることで、多様な課題の解決を応援します。					
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点 点 化	方向性	
			令和3年度	令和4年度	令和5年度		成果	コスト
1	図書館サービス基盤整備事業	図書館	59,142	60,968	61,382		拡充	現状維持
2	本の寺子屋推進事業	図書館	3,870	2,409	2,689		拡充	拡大
3	市民読書活動推進事業	図書館	1,661	1,581	1,649		現状維持	現状維持
4	図書館事業諸経費	図書館	156,001	155,636	170,284	-	-	-
5	古田晁記念館諸経費 (施設改修)	図書館	0	1,529	1,046	△	縮小	縮小

「重点化」欄 ◎:最重点化事業 ○:重点化事業 △:コスト削減事業 ×:休廃止事業

【参考】令和4年度 事後評価

施策指標 の 要因分析	・まちづくりチャレンジ事業補助金交付団体は、トライアルの新規採択が3団体、ステップアップの継続採択が5団体で、いずれも自立・継続が期待できる。「まちづくりフェスティバル」やフリーコミュニティでの情報発信、「まちチャレセミナー」によるNPO育成支援など協働のまちづくり推進事業を複数の切り口で効果的に推進しており、NPO活動が多様化し団体の自立性と持続性が高まっている。 ・市民交流センターの貸館利用については、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、徐々に利用件数が回復し、前年対比で4割ほどの増加となった。様々な活動が再開され、社会変容に応じた新たな活動が生まれることも期待できる。 ・図書館は感染症対策を行いながら積極的に運営した。多様な分野で確かな情報の取得への需要が高まるなか、魅力的なイベントや講座の実施などにより、利用状況は高水準で推移している。
施策の 定性評価	・市民交流センターは、大きな社会変革のなかで多様化する地域課題の解決につながる活動や将来の地域づくりに資する人づくりの拠点として進化を求めながら運営してきた。情報発信と交流の拠点、地域課題を解決する市民活動の拠点として、DXをはじめ新たな知識や技術の進展を視野に入れながら、時代の変化に対応する交流施設として価値を高めている。 ・先行きの不透明感が高まる社会状況のなかで、確かな情報や知識を提供する図書館を中核とした複合施設としての強みを生かした運営が求められる。基本的な図書館サービスを充実させながら、課題解決型図書館として多様な市民活動を視野に入れて新たなサービス創出に挑戦し、進化を遂げている。

評価者	所属	生涯学習部	職名	部長	氏名	胡桃 慶三
施策担当課長	所属	市民交流センター、図書館	氏名	上條 史生		

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		協働のまちづくり推進事業				担当課		市民交流センター						
目的	対象	市民、市民公益活動団体				施策体系		10-2-1						
	意図	市民及び市民公益活動団体等の主体性・自主性の向上や活動の活性化、市民交流センターでの事業の多様化を目指し、団体の育成や活動の支援を行う。				新規/継続		継続						
手段		講演会、研修会の開催、まちづくりチャレンジ事業実施団体への補助金交付により、市民公益活動団体等の育成、支援を行う。				会計区分		一般						
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度					
	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信				○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信				○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信					
事業費・財源	決算額		(千円)	2,987	決算額		(千円)	3,480	予算額		(千円)	5,067		
	市民活動支援業務委託料			1,428	市民活動支援業務委託料			1,428	市民活動支援業務委託料			1,493		
	まちづくりチャレンジ事業補助金			660	まちづくりチャレンジ事業補助金			1,118	まちづくりチャレンジ事業補助金			2,000		
	市民営提案事業委託料			660	市民営提案事業委託料			528	市民営提案事業委託料			594		
	その他			239	その他			406	その他			980		
	特定		0	一般	2,987	特定		0	一般	3,480	特定		0	一般
業務量(人工)		正規	1.52人	会計年度	0.77人	正規	1.52人	会計年度	0.77人	正規	1.87人	会計年度	0.77人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・まちづくりチャレンジ事業について、前年度行った社会福祉協議会主催のセミナーのPR、広報用チラシのデザイン刷新、チャレンジ事業を活用した団体の取組自体がPRになったことなどにより、上半期の相談件数は13件11団体となり、前年度から継続して申請した団体含む8団体が採択され活動している状況である。 ・下半期に向け、まちづくりチャレンジ事業二次募集の申し込みを検討している団体に対して、適宜フォローアップを行っている。 ・新型コロナウイルスの影響による活動の自粛がなくなり、市民活動団体の対面での活動が活発になってきている。
当年度生じた新たな問題等	・まちづくりチャレンジ事業補助金の周知により相談件数は増加しているが、制度の趣旨を理解せずに申請しようとする団体も増えている。事前相談での丁寧な説明により、制度の趣旨の理解を上げていく必要がある。 ・まちづくりチャレンジ事業におけるNPO団体等への業務委託について、可能な条件、受託先等、調査研究を重ねていく必要がある。
見直し対象の補助金等	【内容を見直して継続】 ・まちづくりチャレンジ事業補助金

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	唐澤 敏樹	連絡先(内線)	4251
最終評価者	市民交流センター長		氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長		氏名	上條 さやか

○評価指標

評価指標(単位)	まちづくりチャレンジ事業実施団体数(団体)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		4	6	8
実績値(事後評価)	2	5	7	
目標値		5	6	7
評価指標(単位)	研修会や講座等の開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		9	11	5
実績値(事後評価)	11	12	15	
目標値		10	15	20

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・協働のまちづくり推進委員会による、補助金申請事業の審査、評価及び団体の育成支援等を実施した。 ・まちづくりチャレンジ事業補助金の交付及び団体の育成支援を行った。 ・NPO法人等が団体の活動をPRする場を設けるとともに、市民活動を実践するためのノウハウ等を学ぶための講座を開催した。
成果	・まちづくりチャレンジ事業補助金の交付を7団体が受け、独自事業を展開した。 ・市民営提案事業として「市民大学プラットフォームを生かした市民講座」により、市民による市民のための事業実施を進めた。 ・市民活動団体等えんばーく利用者同士を交流会を通じてつなぐなど、広く交流を図ることができた。
課題	・まちづくりチャレンジ事業など市民活動に関する相談件数は、前年と変わらず同数となった。次年度も引き続き制度の積極的な周知や、活動を希望する団体等の相談の機会を多く設けることで、新規の申し込みにつなげ、活動団体の増加及び育成を図る必要がある。 ・市民活動団体の活動人数の確保や事業拡大のため、団体同士のつながりを強化する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	協働のまちづくり推進事業			課名	市民交流センター	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	V 対話を重ね夢ある市政で未来を描く	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	B 共創循環	戦略分野	6 行政運営・協働参画・連繋		目的	対象	市民、市民公益活動団体				
	施策	活動している人や組織を知る・知り合う機会があることで、自ら行動を始めるきっかけとなったり、活動を続ける支援や仲間の手助けがある			意図		市民及び市民公益活動団体等の主体性・自主性の向上や活動の活性化、市民交流センターでの事業の多様化を目指し、団体の育成や活動の支援を行う。					
	6-1				手段		講演会、研修会の開催、まちづくりチャレンジ事業実施団体への補助金交付により、市民公益活動団体等の育成、支援を行う。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・まちづくりチャレンジ事業補助金は市民に周知されてきているが、制度の趣旨の理解度は高くない状況にある。そのため、新たにパンフレットを作成し、分かりやすい制度説明に加え、過去の補助金活用団体の活動内容等を紹介するページも加え、制度の理解度を高める取り組みをしていく。	新年度予算 要求事項	・まちづくりチャレンジ事業補助金を活用する団体は、年々増加している。制度上、最大4年間補助金を受けることができ、金額もその年数により変動する。令和6年度は、近年の補助金活用団体数と相談件数から新規申し込み団体数を推測し、今年度より300千円増額の増額を要求する。
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	まちづくりチャレンジ事業実施団体数(団体)	13	13	13
2	研修会や講座等の開催数(回)	15	15	15

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
市民活動支援業務委託料		1,493		1,493		1,493
まちづくりチャレンジ事業補助金		2,300		2,300		2,300
市民営提案事業委託料		594		594		594
その他		980		980		980
				0		0
事業費合計		5,367	+0	5,367	+0	5,367
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	(名称)		0		0
	一般財源			5,367	+0	5,367

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。事業が活性化しているため、より地域課題解決に向けた支援を行うこと。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	唐澤 敏樹	連絡先(内線)	4251
-------	-------	----------	---------	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		市民交流センター交流企画事業				担当課		市民交流センター					
目的	対象	市民全体、事業者、各種団体、市外からの来館者				施策体系		10-2-1					
	意図	新しい人々や多くの人々が絶えず行きかう場を創出し、知恵の交流を通じた人づくりを図る。				新規/継続		継続					
手段		5つの重点分野「図書館、子育て支援、青少年交流、シニア活動支援、市民活動支援」を融合した事業を実施する。また、様々な活動のための基盤提供事業を行う。				会計区分		一般					
年度別 事業内容		令和3年度		令和4年度		令和5年度							
		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協働による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協働による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施		○センターの貸館受付と証明発行業務 ○センターの協働による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施							
事業費・財源		決算額 (千円)		18,028	決算額 (千円)		17,540	予算額 (千円)		5,654			
		IT講座運営事業等委託料		1,500	IT講座運営事業等委託料		1,500	IT講座運営事業等委託料		1,504			
		市民営提案事業委託料		1,416	市民営提案事業委託料		1,417	市民営提案事業委託料		1,418			
		交流イベント開催委託料		598	中心市街地活性化事業		170	中心市街地活性化事業		300			
		その他		14,514	こどもアトリエタウン負担金		273	その他		2,432			
					その他		14,180						
		特定	428	一般	17,600	特定	381	一般	17,159	特定	422	一般	5,232
業務量(人工)		正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	1.96人	会計年度	3.98人	正規	1.56人	会計年度	3.98人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・本年度は図書館や子育てセンターを交えてのイベントを増加させた。また、多世代間での交流を図るイベントも企画している。 ・「管理運営方針」の改定については、協議中である。
当年度生じた新たな問題等	・貸館業務について、予約方法や支払方法などのオンライン化を希望する利用者が増えている。また、窓口業務においても、壁柱・市民サロンの予約管理の電子システム化の余地がある。ともに、デジタル化等による効率化が急務である。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・中心市街地活性化イベント負担金

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	神戸 加奈	連絡先(内線)	4221
最終評価者	市民交流センター長		氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長		氏名	上條 さやか

○評価指標

評価指標(単位)	貸館利用者人数(人)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	36,316		15,113	19,563	20,293
実績値(事後評価)			36,622	50,672	
目標値			40,000	50,000	60,000
評価指標(単位)			講座等参加者満足度(%)		
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)	95.5		98.2	97.8	98.0
実績値(事後評価)			99.2	97.1	
目標値			90.0	90.0	90.0

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	②
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・ICTルームを活用し、暮らしや仕事に役立つ「ばそこん基礎講座」を30講座実施した。 ・ビジネス支援や子育て支援・青少年交流など、多様な内容による講座や講演会を実施し、五つの重点分野を融合した事業を12事業22回開催した。 ・市民営提案事業による交流企画事業こどもだけの街「こどもしおじり」は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで開催した。 ・貸館業務や証明書交付を行い、丁寧な窓口対応を心掛けた。
成果	・ライブプラン講座やボードゲバーク、大門ウォークなど新規3事業を実施し、市街地の活性化や青少年の交流に寄与するとともに、事業全体では年間延べ4,092人の参加者を迎え、えんぱーく(に)コロナ禍前の賑わいを取り戻すことができた。事業の実施により、交流を通じた新たな知恵の創造につなげることができた。
課題	・子育て世代への応援事業、子ども向けの講座や事業を実施するとともに、今後は、シニア世代や青少年世代等が集い、交流や発信を行う場となるような事業を多く展開していく必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	市民交流センター交流企画事業			課名	市民交流センター		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	V 対話を重ね夢ある市政で未来を描く
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	B 共創循環	戦略分野	6 行政運営・協働参画・連繋		目的	対象	市民全体、事業者、各種団体、市外からの来館者				
	施策	活動している人や組織を知る・知り合う機会があることで、自ら行動を始めるきっかけとなったり、活動を続ける支援や仲間の手助けがある			意図		新しい人々や多くの人々が絶えず行きかう場を創出し、知恵の交流を通じた人づくりを図る。					
	6-1				手段		5つの重点分野「図書館、子育て支援、青少年交流、シニア活動支援、市民活動支援」を融合した事業を実施する。また、様々な活動のための基盤提供事業を行う。					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・貸館業務について、オンライン決済を希望する利用者が増えている。 ・窓口業務において、壁柱・市民サロンの予約管理の電子システム化の余地がある。デジタル化による効率化が必要である。	新年度予算 要求事項	—
--------	--	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施	○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施 ○予約システムの更新	○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業の実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	貸館利用人数(人)	65,000	70,000	75,000
2	講座等参加者満足度(%)	90	90	90

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
IT基礎講座委託料		1,504		1,504		1,504
市民営提案事業委託料		1,428		1,428		1,428
中心市街地活性化事業		300		300		300
その他		2,516	▲94	2,422		2,422
事業費合計		5,748	▲94	5,654	+0	5,654
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	講座受講料等	+422	422		422
	一般財源		▲516	5,232	+0	5,232

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主事	氏名	神戸加奈	連絡先(内線)	4221
-------	-------	----------	---------	----	----	----	------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		市民交流センター管理諸経費（施設改修）						担当課		市民交流センター						
目的	対象	市民交流センターの利用者						施策体系		10-2-1						
	意図	利便性や満足度の向上と施設機能の適切な確保を図る。						新規/継続		継続						
手段		施設（共用部分を含む）の警備・清掃・駐車場整理業務にかかる維持管理の実施						会計区分		一般						
								個別施設計画		○						
年度別 事業内容		令和3年度				令和4年度				令和5年度						
		○空調機法定点検 ○消防設備整備 ○防水塗装工事 ○自動ドア整備（センサー） ○飛散防止フィルム張替 ○電話交換機取替工事				○館内監視用システム整備 ○ロスナイフィルター交換 ○建物西面外壁シール工事 ○衛生ポンプ整備 ○自動ドア整備 ○飛散防止フィルム張替				○建物東・南面外壁シール工事 ○音響・映像設備改修 ○エネルギー消費最適化設計						
事業費・財源		決算額		(千円)		20,966	決算額		(千円)		18,975	予算額		(千円)		23,452
		施設改修				20,966	施設改修				18,975	外壁改修工事（南・東面）				19,195
												音響・映像設備改修				2,420
												その他修理（小破修繕）				1,837
		特定	17,100	一般	3,866	特定	16,000	一般	2,975	特定	15,800	一般	7,652			
業務量（人工）		正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規	0.99人	会計年度	0.80人	正規	1.04人	会計年度	0.80人			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・長期修繕計画見直しのため、当初作成されたものと現状を見比べ、課題の確認を行った。 ・長期修繕計画見直しは内製では難しいため、外部委託することを前提に専門業者と打ち合わせを行い見積り等を徴取した。
当年度に生じた 新たな問題等	・市専有部とえんぱーく管理組合共用部ともに施設・設備の営繕修繕の必要性が高まり、業務量がさらに増えることが見込まれる。工事の実施にあたり市と管理組合の費用負担や発注・管理業務を適正に処理できるよう、体制の整備が求められる。
見直し対象の 補助金等	

○評価指標

評価指標(単位)	えんぱーく来館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	219,015	210,102	220,285
実績値(事後評価)	500,810	500,203	
目標値	670,000	670,000	670,000

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の 方向性	①
	効率性	2	やや低い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・長期修繕計画で予定していた、外壁改修工事(北面・西面)を実施した。 ・省エネルギー化を反映する機器設備導入に向け、補助金申請等の検討や準備を行った。 ・空調機器等の突発的な故障の修繕を実施した。
成果	・外壁の改修により、雨の浸入があった部分が改善され、景観の向上、長寿命化に繋がった。 ・省エネルギー化に向け、R5年度での設計、R6年度での工事実施の目的が付いた。 ・機器等の突発的な不具合発生の都度、迅速に対応したことにより、利用者の利便性、快適性を損なうことなく施設・設備の維持、管理を行うことができた。
課題	・従前に作成された長期修繕計画に基づく修繕計画から、現状に見合う修繕計画への見直しが必要である。 ・長期修繕計画の見直しや営繕修繕等について、市所有部分とえんぱーく管理組合としての管理部分を明確に分ける必要がある。併せて管理運営についても、市とえんぱーく管理組合の担当者や業務を区別する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	4253
最終評価者	市民交流センター長		氏名	上條 史生	担当係長	市民活動支援係長		氏名	上條 さやか

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	市民交流センター管理諸経費(施設改修)			課名	市民交流センター		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅳ 安心安全なまちで未来を支える
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	B 共創循環	戦略分野	6 行政運営・協働参画・連繫		目的	対象	市民交流センター利用者				
	施策	活動している人や組織を知る・知り合う機会があることで、自ら行動を始めるきっかけとなったり、活動続ける支援や仲間の手助けがある			意図		快適な市民活動拠点施設の整備					
	6-1				手段		計画的な施設及び設備の改修					

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○改修工事 ・レジリエンス工事 ・屋上防水工事 ・省エネ計算、BELS認証業務委託		レジリエンス工事	※	694,218	+25,000	719,218		719,218
			屋上防水工事	※	25,000	▲25,000	0		0
			省エネ計算、BELS認証業務委託			+2,000	2,000		2,000
							0		0
							0		0
			事業費合計		719,218	+2,000	721,218	+0	721,218
	財源	特定財源				685,349		685,349	
	一般財源				33,869	+2,000	35,869	+0	35,869
令和7年度	○改修工事 ・換気扇(全熱交換器)部品交換 ・屋上防水工事 ・電気設備工事 ・消防設備工事		換気扇(全熱交換器)部品交換	※	14,000		14,000		14,000
			屋上防水工事	※	18,000		18,000		18,000
			電気設備工事	※	2,400		2,400		2,400
			消防設備工事	※	17,434		17,434		17,434
						0		0	
			事業費合計		51,834	+0	51,834	0	51,834
	財源	特定財源				46,600	+3,215	49,815	
	一般財源				5,234	▲3,215	2,019	+0	2,019
令和8年度	○改修工事 ・衛生設備工事 ・電気設備工事 ・消防設備工事		衛生設備工事		2,200		2,200		2,200
			電気設備工事		5,780		5,780		5,780
			消防設備工事		3,352		3,352		3,352
						0		0	
						0		0	
			事業費合計		11,332	+0	11,332	+0	11,332
	財源	特定財源				10,100	+204	10,304	
	一般財源				1,232	▲204	1,028	+0	1,028

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・災害時の代替庁舎や緊急避難場所として、その機能を強化し、また、LED照明や高効率空調設備の整備によりCO ₂ 削減とエネルギー消費の削減を実現することが急務である。 ・脱炭素化推進事業債を利用するにあたり、BELS認証を受けていることが条件となるため、早急に取得する必要がある。
新年度予算要求事項	・環境省の補助金を利用し実施するもの。 ・補助事業で太陽光パネルを設置するため、屋上防水工事も併せ行う必要がある。

○ 査定コメント

第1次査定	・屋上防水工事は、太陽光パネル設置の台座となることから、レジリエンス工事と一体的に行うこととし、要求を認める。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	4253
-------	-------	----------	---------	----	----	----	------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	市民交流センター管理諸経費(長期修繕計画)			課名	市民交流センター	新規/継続	新規	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅳ 安心安全なまちで未来を支える
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	B 共創循環	戦略分野	6 行政運営・協働参画・連繋	目的	対象	えんぱーく管理組合				
	施策	活動している人や組織を知る・知り合う機会があることで、自ら行動を始めるきっかけとなったり、活動を続ける支援や仲間の手助けがある				意図	快適な市民活動拠点施設の整備				
	6-1					手段	計画的な施設及び設備の改修				

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○長期修繕計画、管理業務仕様見直し ・業務委託	長期修繕計画書見直し業務			5,889		5,889		5,889
		管理業務仕様書見直し業務			7,366		7,366		7,366
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			13,255	+0	13,255	+0	13,255
	財源	特定財源			4,169		4,169		4,169
令和7年度		一般財源			9,086	+0	9,086	+0	9,086
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			0	+0	0	0	0
	財源	特定財源					0		0
令和8年度		一般財源			0	+0	0	+0	0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
		事業費合計			0	+0	0	+0	0
	財源	特定財源					0		0
		一般財源			0	+0	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・えんぱーくは築13年が経過し、当初作成された長期修繕計画では、現状の施設状態、長期的視点を反映していないため見直しが必要である。 ・管理組合の修繕積立金は、現計画を根拠としているため必要な金額が確保されていない。施設維持に必要な改修工事を適切に行うためには、早期に長期修繕計画を見直し、それを根拠に適正な積立金額を設定する必要がある。
新年度予算要求事項	・現計画では、市専有部分と共用部分の区分が不明確な部分が多い。 ・責任区分を明確に分け、予算と管理体制をそれぞれ適正に行えるよう、長期修繕計画見直し業務委託料と併せ、管理業務仕様書を見直す業務委託料も計上する。

○ 査定コメント

第1次査定	・令和7年度から修繕積立金を適正に徴収できるよう調整に努めること。
第2次	・修繕計画及び負担金の見直しとともに、管理や組合における合意形成などについても改めて確認を行うこと。

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	4253
-------	-------	----------	---------	----	----	----	------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		図書館サービス基盤整備事業						担当課		図書館					
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業						施策体系		10-2-2					
	意図	図書館資料の充実と活用。図書館システムによる安定的な運営						新規/継続		継続					
手段		図書等の購入をする。資料等データの整備を行う。図書館システムを活用したサービス提供を行う。						会計区分		一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	○図書館電算機器使用料 ○図書館システム更新 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入						
事業費・財源	決算額		(千円)		59,142	決算額		(千円)		60,968	予算額		(千円)		61,382
			図書館システム使用料		16,179			電算機器リース料		21,290			電算機器リース料		21,291
			図書データ作成委託料		1,221			図書データ作成委託料		1,191			図書データ作成委託料		1,884
			図書購入費		29,999			図書購入費		29,997			図書購入費		30,000
			その他		11,743			電子図書館協働運営事業負担金		0			電子図書館協働運営事業負担金		248
								その他		8,490			その他		7,959
			特定	25	一般	59,117	特定	2,884	一般	58,084	特定	1,044	一般	60,338	
業務量(人工)		正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規	1.15人	会計年度	4.77人	正規	0.54人	会計年度	3.95人		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・多様化する利用者ニーズに応じた情報サービスを適切に行えるよう、資料の購入と除籍を進め、寄贈資料の登録を行っている。 ・市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」の中学校での利用をモデル校で先行導入した。GIGAスクールが進む中で学校図書館の機能向上の具体例として県内での先進事例となった。また、視覚障害者向けサービスである「アクセシブルライブラリー」のサービスを開始した。
当年度生じた新たな問題等	・サービスを開始した「デジとしょ信州」を多くの市民に利用してほしい。利用者のニーズに沿った選書によりコンテンツの充実を図るとともに、「アクセシブルライブラリー」を含めて、新たな図書館サービスの魅力を周知する必要がある。
見直し対象の補助金等	

○評価指標

評価指標(単位)	蔵書数(冊)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		505,405	509,795	520,569
実績値(事後評価)	503,697	505,820	514,522	
目標値		515,000	530,000	545,000
評価指標(単位)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	②
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		B		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・市民のニーズに対応するため、資料購入と情報の古い資料の除籍を行った。 ・図書のマーク(書誌情報データ)等の作成委託を行い、図書館システムでの迅速な資料検索と提供を行った。 ・図書館システムを共同で利用することとなった、大桑村図書館の開館にあたり、システム共同利用を開始した。
成果	・図書データの作成委託でシステムへの資料登録を効率的に行い、迅速な資料提供を行った。 ・大桑村との図書館システムの共同利用により、県内図書館連携の促進と、システム経費の節減を行った。 ・電子図書館サービス「デジとしょ信州」の導入に関わることで、新たに電子図書館サービスの提供が実現した。
課題	・市民ニーズをはじめ、多様な需要に対応するための資料や情報の更なる充実を図る必要がある。 ・利用しやすい書架づくりのため、適正な除架、除籍と資料購入により資料整備を進める必要がある。 ・デジとしょ信州を広く市民に周知し利用登録者を拡大するとともに、運営に関わることで、市民が利用しやすいサービスにしていける必要がある。

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主任	氏名	北澤 梨絵子	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業			課名	図書館	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	V 対話を重ね夢ある市政で未来を描く
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民、市外の利用者、団体、企業			
	施策	「読む」を通じ新たな知識に触れ、探索・体験する機会がある			意図		図書館資料の充実と活用。図書館システムによる安定的な運営				
	3-3				手段		図書等の購入、資料等データの整備、図書館システムを活用したサービス提供				

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・多様化する利用者ニーズを踏まえ情報サービスを適切に行えるよう、資料の購入と除籍を進め、寄贈資料の登録を行う。 ・協働電子図書館「デジとしょ信州」を市内の児童、生徒の利用登録を進め、更なる読書環境の整備を行うとともに、市民への更なる周知を行う。	新年度予算 要求事項	・市民ニーズをはじめ、多様な需要に対応するための資料や情報の更なる充実を図るため、図書購入費を継続的に計上する必要がある。
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入	○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入 ○システム改修(カードレス化)	○図書館電算機器使用料 ○図書館システム更新 ○図書データ整備 ○情報資料の購入

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	蔵書数(冊)	525,000	530,000	535,000
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
電算機器リース料		21,291		21,291		21,291
図書データ作成委託料		1,900	▲16	1,884		1,884
図書購入費		30,000		30,000		30,000
電子図書館協働運営事業負担金		248		248		248
その他		7,943	+16	7,959		7,959
事業費合計		61,382	+0	61,382	+0	61,382
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	図書館システム使用料負担金等	+1,014	1,014		1,014
	一般財源		▲1,014	60,368	+0	60,368

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおりとするが、図書購入は不断の見直し・改善を図ること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主任	氏名	北澤 梨絵子	連絡先(内線)	4243
-------	-------	-----	----	----	----	--------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業(備品購入)			課名	図書館		新規/継続	新規	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民				
	施策	「読む」を通じ新たな知識に触れ、探索・体験する機会がある			意図		図書館分館の整備					
	3-3				手段		洗馬支所改修に合わせた書架の更新によるレイアウト変更					

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
	事業費合計				0	+0	0	+0	0
財源	特定財源						0		0
	一般財源				0	+0	0	+0	0
令和7年度	○洗馬分館 ・洗馬支所改修工事に伴う備品購入		書架等備品購入		11,500	▲11,500	0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
	事業費合計				11,500	▲11,500	0	0	0
財源	特定財源						0		0
	一般財源				11,500	▲11,500	0	+0	0
令和8年度							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
	事業費合計				0	+0	0	+0	0
財源	特定財源						0		0
	一般財源				0	+0	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・現在の洗馬分館の書架は、旧図書館本館で使用していたものを転用したため、書架の高さや配置が適当でなく改善の余地が大きい。 ・洗馬支所の改修工事に合わせて図書館のレイアウトを見直し、書架を更新することにより、子どもをはじめ地域住民にとって利用しやすく魅力的な分館への改善が図られる。
新年度予算要求事項	—

○ 査定コメント

第1次査定	・洗馬支所改修は、現時点では部分的に行うものであることから備品購入費の要求は認めない。おおきなレイアウト変更ではなく、工夫によって利用者サービスの向上を図ること。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	南澤 強	連絡先(内線)	4253
-------	-------	----------	---------	----	----	----	------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		本の寺子屋推進事業						担当課		図書館			
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業						施策体系		10-2-2			
	意図	市民や市外居住の人に向け文化的な体験機会を創出し、生涯学習の場を提供するとともに、本市の取り組みを広く周知する。						新規/継続		継続			
手段		講演会やワークショップ、見学会の開催。企画展示の開催。						会計区分		一般			
年度別 事業内容	令和3年度			令和4年度			令和5年度						
	○本の寺子屋講演会開校10周年 ○本の寺子屋講演会書籍出版 ○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示			○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示			○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示						
事業費・財源	決算額		(千円)	3,870	決算額		(千円)	2,409	予算額		(千円)	2,689	
	講師謝礼			1,184	講師謝礼			1,464	講師謝礼			1,224	
	書籍出版委託料			1,700	費用弁償			254	費用弁償			499	
	費用弁償			246	印刷製本費用			424	印刷製本費用			424	
	印刷製本費用			435	その他			267	その他			542	
	その他			305									
	特定	691	一般	3,179	特定	0	一般	2,409	特定	0	一般	2,689	
業務量(人工)		正規	0.72人	会計年度	1.57人	正規	0.72人	会計年度	1.57人	正規	0.48人	会計年度	1.39人

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・塩尻市立図書館の特色ある取り組みとして知名度が増しブランド力が高まっている。 ・講演会では固定的な聴講者が増え、新規の聴講者も継続的に獲得している。引き続き、著名人を講師に招き、若い世代に向けた発信力を高めながら魅力的な講演企画を継続する。 ・企画展示は、絵本作家や地元のアーティスト、市内外の博物館や美術館、信州大学などとの連携により、多彩なテーマで展示内容の質を高めている。
当年度生じた新たな問題等	・講演会を聴くことにとどまらず、参加者同士の交流を生み出すための工夫が求められていることから、仮称「本の寺子屋友の会」の設置に向けて準備を進めている。市民が主体的に活動できるような会となるよう、参加者を募り活動を開始する。
見直し対象の補助金等	

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

○評価指標

評価指標(単位)	講演会・トークショー・企画展示開催数(回)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		7	12	7
実績値(事後評価)	13	18	24	
目標値		18	18	18
評価指標(単位)	参加満足度(%)			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)		86.0	91.9	93.3
実績値(事後評価)	89.0	94.8	93.5	
目標値		90.0	90.0	90.0

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	①
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い	成果	拡充
総合評価		C		コスト	拡大

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・子どもたちに本の魅力を届ける「子ども本の寺子屋」を開催し、講座やワークショップを実施した。 ・地元企業や県立図書館と連携した企画展示を行い、図書館利用の拡大に努めた。
成果	・寺子屋の参加人数は過去最高となり、満足度も目標値を上回った。 ・積極的なプレスリリースにより、全国紙を含む新聞や雑誌などに記事掲載が重ねられ、事業の認知度と評価が高まった。 ・書籍「信州しおじり本の寺子屋 古田晁記念館文学サロン講演録 古田晁と臼井吉見の55年6か月」を刊行した。
課題	・出版社や書店等との連携を更に強化しながら、多様な内容の魅力ある講座を開催していく必要がある。 ・アンケート調査などにより、若い世代が魅力を感じる講演内容を把握し、今後の企画に反映する必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	本の寺子屋推進事業			課名	図書館	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				
	施策	「読む」を通じ新たな知識に触れ、探索・体験する機会がある			意図		市民や市外居住の人に向け文化的な体験機会を創出し、生涯学習の場を提供するとともに、本市の取り組みを広く周知する。					
	3-3				手段		講演会やワークショップ、見学会の開催。企画展示の開催					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・講演会を聴くことにとどまらず、参加者同士の交流を生み出すための工夫が求められていることから、仮称「本の寺子屋友の会」の設置に向けて準備を進めている。市民が主体的に活動できる会となるよう、参加者を募り活動を開始する。	新年度予算 要求事項	・本の寺子屋参加者のための託児費用を計上する。 ・仮称「本の寺子屋友の会」は市民が主体的に活動できる会として運営できるようサポートしていくが、当面は運営費を計上し、活動しやすい環境を提供する必要がある。
--------	--	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○(仮)本の寺子屋友の会運営費	○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○(仮)本の寺子屋友の会運営費	○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○(仮)本の寺子屋友の会運営費

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	講演会・トークショー・企画展示開催数(回)	18	18	18
2	参加満足度(%)	90	90	90

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼			1,224		1,224		1,224
費用弁償			499		499		499
印刷製本費用			424		424		424
本の寺子屋友の会(仮)運営費			18	▲18	0		0
その他			615	▲63	552		552
事業費合計			2,780	▲81	2,699	+0	2,699
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		2,780	▲81	2,699	+0	2,699

○ 評価コメント

第1次評価	・チラシ用紙代など寺子屋友の会(仮)運営費は、既設の予算範囲内で実施すること。 ・託児保育士派遣委託料は、予算計上する必要性がないと判断し認めない。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
-------	-------	-----	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		市民読書活動推進事業						担当課		図書館					
目的	対象	乳幼児から高齢者までの市民、団体						施策体系		10-2-2					
	意図	幼児・児童の読書活動を推進するとともに、ボランティアを育成する。						新規/継続		継続					
手段		・乳幼児・児童の読書環境充実 ・ボランティア育成と活動基盤の提供 ・学校との連携による講座開催 ・絵本プレゼント						会計区分		一般					
年度別 事業内容	令和3年度				令和4年度				令和5年度						
	OPTAとの協働による親子読書活動の再構築 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				OPTAとの協働による親子読書活動で購入した図書の活用方法を検討 ○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施				○学校との連携による読書活動支援活動 ○市民読書活動グループの活用 ○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施						
事業費・財源	決算額		(千円)		1,661	決算額		(千円)		1,581	予算額		(千円)		1,649
	消耗品費				1,179	消耗品費				1,197	消耗品費				1,198
	印刷製本費				212	印刷製本費				150	印刷製本費				150
	PTA親子文庫活動補助金				200	PTA親子文庫活動補助金				0	市民読書グループ活動補助金				70
	市民読書グループ活動補助金				70	市民読書グループ活動補助金				70	その他				231
						その他				164					
	特定		0		一般	1,661		特定		0		一般	1,649		
業務量(人工)		正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規	0.32人	会計年度	1.12人	正規	0.30人	会計年度	0.97人		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等に対する取組状況	・ファーストブック、セカンドブック事業を引き続き実施することにより、家庭での読書環境の充実を図っている。 ・市内小学校に出向き、ものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を実施している。 ・新規事業として、教育総務課と連携し、市内中学校生徒を対象とした「ビブリオバトル大会」を県大会予選に位置付けて実施した。 ・読書活動グループ連絡会と連携し、各種おはなし会を実施している。
当年度生じた新たな問題等	・サードブックの導入について、配布時期や対象等、具体的な事業内容を検討する必要がある。 ・GIGAスクールが進むなかで学校図書館の機能向上の具体例として、市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」を中学校での利用をモデル校で先行導入し、県内での先進事例となったが、他の学校への展開と、今後更なる活用方法を検討する必要がある。
見直し対象の補助金等	【現行継続】 ・市民読書グループ活動補助金

作成担当者	生涯学習部 図書館			職名	主任		氏名	小松 久美		連絡先(内線)	4106		
最終評価者	図書館長			氏名	上條 史生		担当係長	副館長			氏名	矢澤 昭義	

○評価指標

評価指標(単位)	PTA親子文庫蔵書数(冊)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)			8,245	8,493	-
実績値(事後評価)	8,245		8,493	-	
目標値			8,100	8,250	8,400
評価指標(単位)	おはなし会実施数(回)				
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
中間値(事中評価)			-	58	70
実績値(事後評価)	-		-	175	
目標値			-	120	120

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	今後の方向性	⑤
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い	成果	現状維持
総合評価		A		コスト	現状維持

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・ファーストブック、セカンドブック事業を推進し、子育て支援や子どもの読書環境の充実に努めた。 ・学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を行った。 ・第3次塩尻市子ども読書活動推進計画に沿って事業を行った。 ・PTA親子文庫の蔵書を小中学校に配布し、学校での読書活動に役立てていただいた。
成果	・学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を感染症対策を行いながら実施した。 ・読書活動グループの内部研修や情報交換の機会を設け、読み聞かせボランティア全体のスキルアップを図った。 ・子ども読書活動推進計画に沿って、読書推進を進めることができた。
課題	・幼少期からの読書環境の充実を更に進める必要がある。 ・サードブックの導入検討を進める必要がある。 ・今後も、学校に訪問して子どもたちにものがたりを届ける「学校巡回ものがたりライブ」を継続していく必要がある。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	市民読書活動推進事業			課名	図書館	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	3 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習		目的	対象	乳幼児から高齢者までの市民、団体		
	施策	「読む」を通じ新たな知識に触れ、探索・体験する機会がある			意図		幼児・児童の読書活動を推進するとともに、ボランティアを育成する。			
	3-3				手段		ボランティア育成と活動基盤の提供。学校との連携による事業実施。乳幼児・児童の読書環境充実。絵本プレゼント。			

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・家庭での読書環境のさらなる充実を図るため、サードブックの導入を検討している。他市の状況や今までの絵本プレゼント事業の成果を踏まえ、R7年度以降実施に向けた準備を進めていく。	新年度予算 要求事項	—
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援	○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援	○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	おはなし会実施回数(回)	120	120	120
2	ボランティアを対象とした研修等実施回数(回)	3	3	3

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
学校巡回ものがたりライブ謝礼		150		150		150
ファーストブック用絵本		450		450		450
セカンドブック用絵本		650		650		650
読書活動グループ活動補助金		70		70		70
その他		329		329		329
事業費合計		1,649	+0	1,649	+0	1,649
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	(名称)		0		0
	一般財源		1,649	+0	1,649	+0

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主任	氏名	小松 久美	連絡先(内線)	4106
-------	-------	-----	----	----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		古田晃記念館諸経費（施設改修）						担当課		図書館						
目的	対象	市民、市外からの来館者						施策体系		10-2-2						
	意図	耐震改修が未実施の施設について、精密診断及び耐震改修を検討する。						新規/継続		新規						
手段		既存の施設について耐震診断を実施し、その結果に基づき耐震改修工事等を行う						会計区分		一般						
								個別施設計画								
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度								
		○古田晃記念館(主屋)耐震診断及び改修計画策定			○古田晃記念館耐震診断委託及び耐震補強・施設改修等の方向性を検討			○古田晃記念館耐震施設改修の内容検討及び調整								
事業費・財源		決算額		(千円)		0	決算額		(千円)		1,529	予算額		(千円)		1,046
		耐震診断委託料				0	耐震診断委託料				1,529	主屋耐震診断委託料				1,046
		特定		0		一般	0		特定		0		一般			1,046
		会計年度		0.10人		会計年度		0.10人		会計年度		0.10人		正規		0.29人
業務量(人工)		正規	0.13人		会計年度	0.10人		正規	0.20人		会計年度	0.10人		正規	0.29人	
		会計年度	0.06人		会計年度	0.06人		会計年度	0.06人		会計年度	0.06人		会計年度	0.06人	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	・寄贈当時の資料により、古田夫妻の住宅として建築された主屋(管理棟)については、大きな改装をせずに住宅としての現状維持が寄贈の条件とされていたことが確認された。 ・主屋の耐震診断を行い、速報値で耐震性が無いことが判明した。公共施設マネジメント課と今後の方向性について検討を行った。
当年度に生じた 新たな問題等	・主屋の耐震診断の速報値で耐震性が無いことが判明し、主屋の保存活用にあたり耐震改修工事が必要であることが確定した。記念館の保存活用計画を見直したうえで、改修計画を具体化する必要がある。
見直し対象の 補助金等	

○評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	137	161	166
実績値(事後評価)	314	304	
目標値	250	250	250

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	今後の方向性	⑥
	効率性	3	やや高い	成果	縮小
総合評価		C		コスト	縮小

【参考】令和4年度 事後評価

取組内容	・公共施設マネジメント課の協力のもと、展示棟・渡り廊下・門の耐震診断を行い、今後の保存活用について検討した。
成果	・展示棟・渡り廊下の耐震診断結果を受け、公共施設マネジメント課と今後の方向性について検討を行った。 ・展示棟(土蔵)と渡り廊下は、文化財としての価値を維持しながら耐震改修を行うには、専門的な工法と経費がかかる見込みである。
課題	・記念館を寄贈してくださった古田家の意向に沿った耐震改修や活用方法を検討する必要がある。 ・展示棟・渡り廊下の耐震診断結果を受け、主屋の耐震診断を行い、耐震改修と施設の有効活用について計画を策定する必要がある。 ・国の補助金交付は見込めないため、他の財源確保を検討する必要がある。

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	主事	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	4243
最終評価者	図書館長	氏名	上條 史生	担当係長	副館長	氏名	矢澤 昭義	

令和6～8年度 実施計画編成シート(ハード事業)

○ 事業概要

事務事業名	古田晁記念館諸経費(施設改修)			課名	図書館		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	Ⅱ 健康長寿で未来を楽しむ
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	その他	戦略分野			目的	対象	市民				
	施策				意図		国の登録有形文化財を保存・活用する。					
					手段		施設の耐震工事を行う。					

○ 年度別事業内容、財源内訳(R6～R8年度)

年度	概要		項目・数量(起債対象に※)	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和6年度	○展示棟(登録有形文化財) ・耐震工事实施設計 ○管理棟(築50年) ・耐震工事实施設計	展示棟耐震工事实施設計	※	11,000	▲11,000	0		0
		管理棟耐震工事实施設計	※	8,500	▲8,500	0		0
						0		0
						0		0
						0		0
		事業費合計		19,500	▲19,500	0	+0	0
財源	特定財源			17,500	▲17,500	0		0
	一般財源			2,000	▲2,000	0	+0	0
令和7年度	○展示棟(登録有形文化財) ・耐震工事 ○管理棟(築50年) ・耐震工事	展示棟耐震工事	※	45,000	▲45,000	0		0
		管理棟耐震工事	※	27,500	▲27,500	0		0
						0		0
						0		0
						0		0
		事業費合計		72,500	▲72,500	0	0	0
財源	特定財源			65,200	▲65,200	0		0
	一般財源			7,300	▲7,300	0	+0	0
令和8年度						0		0
						0		0
						0		0
						0		0
						0		0
		事業費合計		0	+0	0	+0	0
財源	特定財源					0		0
	一般財源			0	+0	0	+0	0

○ 第1期中期戦略期間中の事業展開

事業の緊急性	・令和4年度に展示棟、令和5年度に管理棟の耐震診断を行った結果、展示棟・管理棟ともに耐震性が無いことが判明した。 ・大規模地震等が発生した場合、国の登録有形文化財が倒壊し、記念館利用者のみならず、貴重な資料に被害が及ぶ恐れがあるため、早期の耐震工事を行う必要がある。
新年度予算要求事項	・国の登録有形文化財である展示棟及び管理棟の耐震工事を令和7年度に実施するため、令和6年度に両棟の耐震工事实施設計委託料を計上する。

○ 査定コメント

第1次査定	・展示場所などの配置や極めて限定的な来館者から古田晁記念館の活用・運営方法を検討する必要がある。 ・施設の在り方を含めて、耐震改修工事の必要性、効果、実施、気を再検討すること。
第2次	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	副館長	氏名	矢澤 昭義	連絡先(内線)	4242
-------	-------	-----	----	-----	----	-------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	図書館事業諸経費			課名	図書館		新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	その他	戦略分野			目的	対象	市民と市外の人、団体、企業				
	施策				意図		・本に親しむ企画の提供と図書館利用の拡大 ・多様な課題の解決に必要な図書やデータを充実して、専門的知識で提供する。					
					手段		・図書やデータを集積し、レファレンスなど課題解決の応援 ・本館と分館の機能整備と充実、多様な企画の提供					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・本や紙媒体の資料だけでなく、様々な地域資料の収集・デジタル化を進め、レファレンスなどの課題解決に活用していく。 ・本館・分館の地域の状況に応じた機能の充実を図り、より使いやすい図書館にしていく。 ・優秀な人材を確保するためには、司書の処遇改善が必要であり、新たな上位職の設置や、評価基準を明確にするための検討を行う。	新年度予算 要求事項	・デジタル資料の作成を進めていくためにデジタルコンテンツ作成業務委託料を昨年度に続き計上したい。 ・データベースの料金改定が予定されており、予算の増額が必要となる。 ・塩尻市立図書館50周年記念事業用に制作していただいた原画を、今後もイベント等で活用するために購入したい。
--------	---	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○図書館協議会の開催 ○図書館事務・施設管理経費 ○読書推進行事開催	○図書館協議会の開催 ○図書館事務・施設管理経費 ○読書推進行事開催	○図書館協議会の開催 ○図書館事務・施設管理経費 ○読書推進行事開催

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	レファレンス件数	2,000	2,000	2,000
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
図書館協議会運営		102		102		102
本館事務・運営経費		5,999		5,999		5,999
分館事務・運営経費		907		907		907
50周年記念事業用原画購入費		550	▲550	0		0
				0		0
事業費合計		7,558	▲550	7,008	+0	7,008
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	個人利用カード代外		+33		33
	一般財源			6,975	+0	6,975
		7,558	▲583	6,975		6,975

○ 評価コメント

第1次評価	・50周年記念事業用原画購入費は、ガバメントクラウドファンディング等によって費用を捻出し対応すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	図書館	職名	副館長	氏名	矢澤 昭義	連絡先(内線)	4242
-------	-------	-----	----	-----	----	-------	---------	------

令和5年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名		生涯学習部トイレ改修事業						担当課		社会教育スポーツ課													
目的	対象	市民						施策体系		その他													
	意図	市民に快適な施設環境を提供するため。						新規/継続		継続													
手段		生涯学習部が所管する施設のトイレを洋式化するため、計画的な改修・整備を図る。						会計区分		一般													
								個別施設計画		○													
年度別 事業内容		令和3年度			令和4年度			令和5年度															
					○施設トイレ改修工事			○施設トイレ改修工事 （総合文化センター）															
事業費・財源		決算額		(千円)		-		決算額		(千円)		4,224		予算額		(千円)		5,000					
								改修工事		4,224				改修工事		5,000							
		特定				一般				特定		0		一般		4,224		特定		0		一般	
業務量(人工)		正規				会計年度				正規		0.17人		会計年度		0.00人		正規				会計年度	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題等 に対する 取組状況	—
当年度に生じた 新たな問題等	・総合文化センター建物内の汚水管が鉄管で、経年劣化による配管内の錆の影響に加え、これまで洋式化した箇所は 節水型便器となったことから、詰まりが頻発している。
見直し対象の 補助金等	

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	係長	氏名	清水 佳美	連絡先(内線)	3132
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	田下 高秋	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

○評価指標

評価指標(単位)	トイレ改修・整備数(基)		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
中間値(事中評価)	—	2	0
実績値(事後評価)	—	2	
目標値	—	3	3

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	今後の 方向性	⑦
	効率性	2	やや低い	成果	休廃止
総合評価		D		コスト	皆減

【参考】令和4年度 事後評価

取組 内容	・2階女子トイレの便器1基の洋式化、多目的トイレの洋式便器1 基の更新及び照明のLED化を行った。
成果	・利便性の向上と省エネ化の推進を図ることができた。
課題	・施設の老朽化より排水機能が低下しており、詰まり等が頻繁に 発生している。

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	男女共同参画事業			課名	社会教育スポーツ課	新規/継続	継続	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋	
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	1 パートナースhip・子育て		目的	対象	市民				
	施策	出合いや家族の形を知る機会がある			意図		男女共同参画意識の向上					
	1-2				手段		講演会や講座、セミナー等の開催					

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	—	新年度予算 要求事項	・誰もが個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現を目指し、市民、事業所等を対象とした講座等を開催する。 ・情報誌「共に」を発行し、情報発信や啓発活動を行う。
--------	---	---------------	--

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○市民向け講演会、講座の開催 ○市民団体によるセミナー等の開催 ○情報誌「共に」の発行 ○女性相談	○市民向け講演会、講座の開催 ○市民団体によるセミナー等の開催 ○情報誌「共に」の発行 ○女性相談	○市民向け講演会、講座の開催 ○市民団体によるセミナー等の開催 ○情報誌「共に」の発行 ○女性相談

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	市民意識調査「男女が等しく参加・活躍できる社会環境がある」の満足・やや満足の割合(%)	40	41	42
2	講演会、セミナー講座の開催数(件)	3	3	3

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
男女共同参画審議会委員報酬			81		81		81
講師謝礼			324		324		324
費用弁償			125		125		125
その他			519		519		519
					0		0
事業費合計			1,049	+0	1,049	+0	1,049
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		1,049	+0	1,049	+0	1,049

○ 評価コメント

第1次評価	・市民向けや市民団体によるセミナーは、昨年度と同額で実施すること。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	課長補佐	氏名	三浦 恵美子	連絡先(内線)	3150
-------	-------	-----------	-------	----	------	----	--------	---------	------

令和6～8年度 実施計画編成シート(ソフト事業)

○ 事業概要

事務事業名	パートナーシップ推進事業			課名	社会教育スポーツ課		新規/継続	新規	会計	一般	市長マニフェスト	I 子どもたちは未来への懸け橋		
第六次総合計画 位置付け (第1期中期戦略)	基本戦略	A 未来共育	戦略分野	1 パートナーシップ・子育て		目的	対象	市民						
	施策	出合いや家族の形を知る機会がある					意図	夫婦間やカップル同士の良好な人間関係や性的少数者等に関して学び、多様性の理解を広げる。						
	1-2						手段	講座、セミナー等の開催、啓発活動の実施						

○ 新年度予算編成に向けた定性評価(令和5年度事中評価を踏まえた今後の事業展開)

改善・改革案	・講座、セミナー等の開催、啓発活動を実施することで、夫婦間やカップル同士の良好な人間関係や性的少数者等に関して学び、多様性の理解を広げる。	新年度予算 要求事項	・男女間だけでなく多様性への理解を深め、誰もが生き生きと自分らしく生活できる社会づくりのため、講演会や啓発活動を行う。
--------	---	---------------	---

○ 第六次総合計画 第1期中期戦略 年度別事業内容

令和6年度	令和7年度	令和8年度
○市民向け講座等の開催 ○HP等での啓発	○市民向け講座等の開催 ○HP等での啓発	○市民向け講座等の開催 ○HP等での啓発

○ 評価指標・目標値

評価指標(単位)		目標値		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
1	講座等の開催数(件)	2	2	2
2				

○ 令和6年度事業費、財源内訳

項目			計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼			100		100		100
費用弁償			20		20		20
					0		0
					0		0
					0		0
事業費合計			120	+0	120	+0	120
財源内訳	国庫支出金	(名称)			0		0
	県支出金	(名称)			0		0
	地方債	(名称)			0		0
	その他	(名称)			0		0
	一般財源		120	+0	120	+0	120

○ 評価コメント

第1次評価	・提案のとおり。
第2次評価	—

作成担当者	生涯学習部	社会教育スポーツ課	共生推進係	職名	課長補佐	氏名	三浦 恵美子	連絡先(内線)	3150
-------	-------	-----------	-------	----	------	----	--------	---------	------